

TOKYO MICE テクノロジー 導入ガイドライン

2025年3月更新



はじめに

本ガイドラインでは、東京で開催するMICE※の効率化や新しい価値創出に繋がるとともに、高齢化や生産年齢人口減少といった我が国が抱える社会課題への対応、東京都が今後も取り組むべきD&I(ダイバーシティ&インクルージョン)やサステナビリティの推進に資するテクノロジーに着目し、MICEでの活用方法を示すことで、次世代型のMICE開催のあり方を「東京モデル」として国内外に発信する事を目的としています。

本ガイドラインでは、東京でMICEを開催する主催者の皆様に向けて、今後MICEでの活用が期待できる先端テクノロジーの分野を紹介しています。さらに、公募により選定された25のテクノロジーとその活用のイメージを掲載しています。

関連して、先端テクノロジーを活用したMICE開催に対する助成制度(次世代型MICE開催資金助成)も設けていますので、あわせて申請をご検討ください。

なお、本ガイドラインの内容は、今後の動向等を踏まえて適宜更新する予定です。皆様の東京でのMICE開催の価値を最大化するために、本ガイドラインを積極的に活用されることを願っています。

※MICEとは、M:Meeting(企業系会議)、I:Incentive(企業の報奨・研修旅行)、
C:Convention(国際会議)、E:Exhibition/Event(展示会・イベント等)の頭文字をとった総称

目次

本ガイドラインで紹介するテクノロジーの一覧	P.2
各テクノロジーの紹介ページの記載事項	P.4
テクノロジーの実装イメージ	P.5
このようなお悩みをお持ちの方は・・・	P.7
各テクノロジーの紹介ページ	P.9

MICEにおける
テクノロジー活用イメージ動画



https://youtu.be/l7ZmJVe_opE?si=rnT0r6CPITA1igfu

本ガイドラインで紹介するテクノロジーの一覧

下表では、今後MICEでの活用が期待できる先端テクノロジーの分野を、活用が想定されるシーン別にまとめています。
公募により選定された25件のテクノロジーについては、9ページ以降に詳細情報を掲載しています。

a～fについては、次のページのテクノロジーの簡易概要をご参照ください。

運営サポート	01 プログラム一元管理（国際会議向け）	
	02 MICE管理プラットフォーム	02-1 イベント管理 02-2 アレルギー対応支援アプリ
入退場管理	03 入退場管理	03-1 顔認証入退場管理 03-2 ハンズフリー入場管理
	a セキュリティチェック（異常行動感知）	
会場案内	04 遠隔案内	04-1 遠隔コミュニケーションロボット 04-2 分身ロボット
	05 AI案内	
式典・レセプションでの活用	06 3D表示システム	
	b インタラクティブ映像技術	
	c 配膳ロボット	
セッションでの活用	07 音声多言語化・文字化	07-1 オフライン対応 07-2 二次元コード対応
	d メタバース会議場	
展示での活用	08 テレプレゼンス（遠隔商談）	08-1 固定式 08-2 移動式
	09 展示会場誘導ロボット	
	10 MRによる会場誘導・体験提供	10-1 音声コンテンツ 10-2 音声・映像コンテンツ
	11 混雑状況可視化	
	12 人流解析	
	13 リアルタイム字幕での対話	
	14 メタバース展示場	
	15 ハイブリッドイベントプラットフォーム	15-1 XRプラットフォーム交流 15-2 オンライン・リアル間のコミュニケーション
観光／視察支援、 周辺サービス	16 MaaSプラットフォーム	
	e 地域観光誘客システム	
	f オンライン視察	
	17 空間演出	17-1 ミスト 17-2 ドローンショー

今後掲載予定のテクノロジーの簡易概要 (a～f)

a	セキュリティチェック (異常行動感知)	会場内の複数のカメラから得られる映像データをAI等の技術を用いてリアルタイムに解析し、異常な行動パターンや持ち込み禁止物等の検出を行うテクノロジー。
b	インタラクティブ映像技術	AIによる映像解析や、各種センサーで人の動きや視野を検知する等、ユーザーの行動や環境の変化に応じて、映像をリアルタイムで変化させることが出来るテクノロジー。
c	配膳ロボット	LiDAR ^{※1} などのSLAM ^{※2} (自己位置推定と環境地図作成を同時に行う) 技術を活用することで単発のイベントでも自律走行を可能とし、飲食物などの配膳や運搬を行うロボット。 ※1 Light Detection And Ranging ※2 Simultaneous Localization and Mapping
d	メタバース会議場	バーチャル空間に国内外の会議参加者が数百名以上集まり、口頭発表やポスター発表、それらの聴講や質疑応答などを可能とし、リアル開催との併用が可能なメタバース空間システム。
e	地域観光誘客システム	催事の公式ホームページやアプリ、運営サポートのためのシステムと機能を統合し、開催地周辺エリアの観光情報やクーポンの入手、飲食施設の予約や決済などを一元的に提供するテクノロジー。MICE参加者に食事やショッピング、観光等を楽しんでもらうための機能を有する。
f	オンライン視察	AIを活用して遠隔地にある施設や現場をまるで現地にいるかのように視察できるテクノロジー。高解像度カメラによる360度映像やAR (拡張現実) 技術を用いて、遠隔地の様子をリアルタイムで詳細に観察したり、遠隔操作で機器を操作したりすることが可能なもの。

各テクノロジーの紹介ページの記載事項

今後MICEでの活用が期待できる先端テクノロジーの分野についてより具体的にイメージしていただくため、9ページからは、公募により選定された25のテクノロジーについて、特徴、利用者視点による活用フロー、テクノロジーの価格感、前提条件等を概説しています。なお、いずれのテクノロジーも英語対応が可能です。

テクノロジーの特徴

各テクノロジーのページ冒頭にテクノロジーの利用シーンを掲載しています。テクノロジーの特徴を概観する際は「テクノロジーの概要」欄を御覧ください。

「準備」「開催中」「開催後」の各段階についての活用フロー

主催者の皆様がMICEの「開催中」にテクノロジーを活用する場合、「準備」の段階での事前の調整や、「開催後」の段階での取得データ結果のフィードバックが必要な場合があります。各テクノロジーの「活用フロー」欄では、「準備」「開催中」「開催後」の段階ごとに、テクノロジー活用に係る実施事項や効果・特徴*を掲載しています。

留意事項 1 「テクノロジーの価格感」について

テクノロジーを活用するために要する金額は、催事の規模(面積、展示ブースの数、講演・セミナーの数、参加者数等)に応じて大きく変動するため、各テクノロジーの紹介ページでは、右掲の規模で催事を行った場合にかかる目安の金額をお示ししています。一部のテクノロジーでは機器単体の金額となっていますので、ご注意ください。

想定する催事の規模



講演・セミナー会場10会場、
展示ブース50コマ、
参加者数3,000人



表彰式・レセプション会場、
参加者数2,000人



展示ブース250コマ、
講演・セミナー10回、
参加者数10,000人

留意事項 2 テクノロジー活用の「前提条件」について

活用するテクノロジーによっては、安定的なサービス提供のため、催事を行う会場内に従来より高速なネットワークが整備されている必要があります。また、来場者がスマートフォンやタブレットをお持ちでなければ活用範囲が狭まる場合があります。そのため、各テクノロジーの紹介ページでは、主催者の皆様が活用する際に抑えておくべき前提条件を掲載しています。特に、推奨通信環境はテクノロジーにより仕様が異なり、通信ネットワークの整備状況は会場によっても大きく異なりますので、ご注意ください。

※効果・特徴は、特定個社のサービス・アプリケーションの概要を踏襲しつつ、当該分野に関する同種のテクノロジーを活用することによって期待される効果(直接的効果のみならず、少なからず間接的に寄与するとも考えられる効果も含める)についても記載しています。テクノロジーの具体概要や効果については、各提供事業者の問い合わせ先をご確認ください。なお、二次元コードについては、掲載企業元にて保有があるもののみ掲載しています。

テクノロジーの実装イメージ

よりよい開催運営検討のために…

12 人流解析

言語の違いや聞こえにくさによらず対話するために…

13 リアルタイム字幕での対話

オンライン開催でも臨場感を高めるために…

14 メタバース展示場

ハイブリッド開催でも交流を促進するために…

15-1 ~ハイブリッドイベントプラットフォーム~ XRプラットフォーム交流

15-2 ~ハイブリッドイベントプラットフォーム~ オンライン・リアル間のコミュニケーション

東京の街を快適に楽しんでもらうために…

16 MaaSプラットフォーム

演出の一環として…

17-1 ~空間演出~ ミスト

17-2 ~空間演出~ ドローンショー

広い会場内で目的の場所にしっかりと導くために…

09 展示会場誘導ロボット

場所に合ったコンテンツを導入するために…

10-1 ~MRによる会場誘導・体験提供~ 音声コンテンツ

10-2 ~MRによる会場誘導・体験提供~ 音声・映像コンテンツ

過度の混雑を防ぐために…

11 混雑状況可視化

開催準備を効率化するために…

01 プログラム一元管理 (国際会議向け)

02-1 ~MICE管理プラットフォーム~ イベント管理

02-2 ~MICE管理プラットフォーム~ アレルギー対応支援アプリ

受付で来場者の方をお待たせしないために…

03-1 ~入退場管理~ 顔認証入退場管理

03-2 ~入退場管理~ ハンズフリー入場管理

効率的にご案内するために…

04-1 ~遠隔案内~ 遠隔コミュニケーションロボット

04-2 ~遠隔案内~ 分身ロボット

05 AI案内

Wowを演出するために…

06 3D表示システム

言語の壁を取り除くために…

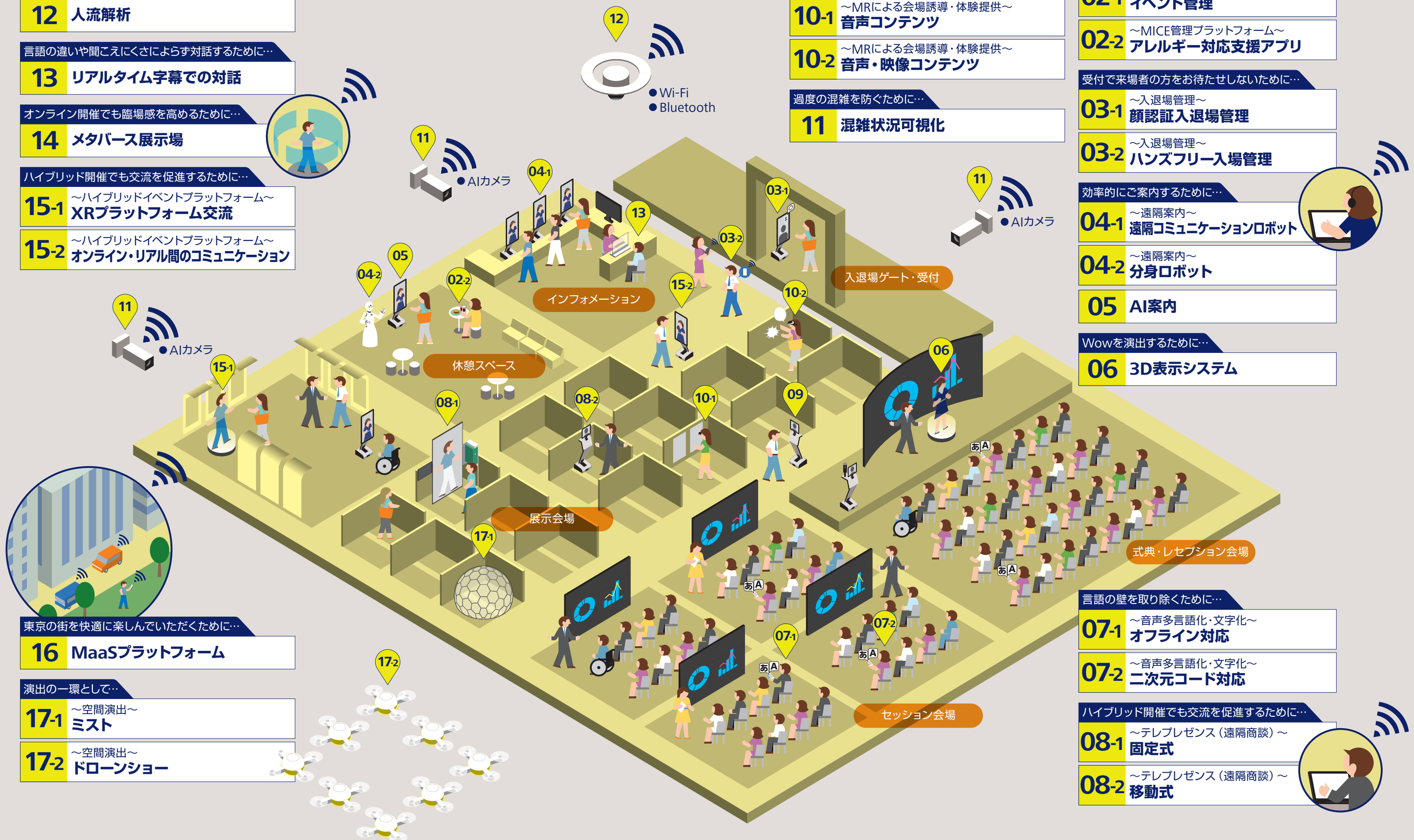
07-1 ~音声多言語化・文字化~ オフライン対応

07-2 ~音声多言語化・文字化~ 二次元コード対応

ハイブリッド開催でも交流を促進するために…

08-1 ~テレプレゼンス(遠隔商談)~ 固定式

08-2 ~テレプレゼンス(遠隔商談)~ 移動式



このようなお悩みをお持ちの方は・・・(1/2)

事前登録・プログラム管理

- ☐ プログラム作成や施設準備、出版印刷等の各種事務業務に係るコストが大きい。

#プログラム一元管理

01 (p.09)がオススメ!

- ☐ 論文査読プロセスは論文募集や査読のための研究者とのマッチング等、業務が煩雑。

- ☐ イベントの準備から開催後に至るまで、様々な対応に追われる。

#イベント管理

02-1 (p.10)がオススメ!

- ☐ 参加者のアレルギー情報を管理するための作業の負荷が大きい。

#アレルギー対応支援アプリ

02-2 (p.11)がオススメ!

受付・インフォメーション

- ☐ 受付での入場証確認は時間を要し、いつも混雑。参加者をお待たせしてしまう。

#顔認証入退場管理
#ハンズフリー入場管理

03-1 (p.12)がオススメ!

03-2 (p.13)がオススメ!

- ☐ 入場受付に伴う人件費のコストが大きい。

#遠隔コミュニケーションロボット

04-1 (p.14)がオススメ!

- ☐ 受付やブース等での説明・商談の対応幅を広げたい。

#分身ロボット

04-2 (p.15)がオススメ!

- ☐ スタッフの会場案内に伴う負荷が大きい。

#AI案内

05 (p.16)がオススメ!

<主にM・I・C> 式典・レセプション

- ☐ 海外からの遠隔登壇において、旧来の映像出演では臨場感に欠けている。

#3D表示システム

06 (p.17)がオススメ!

<主にC> セッション

- ☐ 海外参加者に対し、複数の言語対応が必要であり、複数名の通訳を手配することが困難。

#オフライン対応
#二次元コード対応

07-1 (p.18)がオススメ!

07-2 (p.19)がオススメ!

このようなお悩みをお持ちの方は・・・(2/2)

展示

- | | | |
|---|------------------------|--|
| ☐ 大規模なMICEに対し、十分な数の会場誘導スタッフの確保が難しい。 | #展示会場誘導ロボット | 09 (p.22)がオススメ! |
| ☐ 施設の設営制約(物理的・時間的)があるなかで、参加者に体験コンテンツを提供したい。 | #音声コンテンツ
#音声映像コンテンツ | 10-1 (p.23)がオススメ!
10-2 (p.24)がオススメ! |
| ☐ ブースや講演会など、一部の場所で過度な混雑が発生している。 | #混雑状況可視化 | 11 (p.25)がオススメ! |
| ☐ 来場者の行動データなど開催時のデータ取得が出来ていない。 | #人流解析 | 12 (p.26)がオススメ! |
| ☐ 行動データを取得している場合でも分析方法が分からず、次のMICEにデータを生かせていない。 | | |
| ☐ 言語の違いや聞こえにくさにとらわれず、円滑なコミュニケーションを実現したい。 | #リアルタイム字幕での対話 | 13 (p.27)がオススメ! |
| ☐ オンライン参加者とも、目の前にいるかのように臨場感あるコミュニケーションを取りたい。 | #固定式 | 08-1 (p.20)がオススメ! |
| ☐ オンライン参加者はリアル会場の展示ブースを見ることが出来ず、臨場感に欠けている。 | #移動式 | 08-2 (p.21)がオススメ! |
| ☐ オンライン参加者とリアル参加者のコミュニケーションの機会や偶然的な出会いを欠いている。 | #XRプラットフォーム交流 | 15-1 (p.29)がオススメ! |
| | #オンライン・リアル間のコミュニケーション | 15-2 (p.30)がオススメ! |
| ☐ オンライン会場が単なるWebサイトになり、魅力的な会場を構築できておらず、オンライン参加者数を増やすことが出来ない。 | #メタバース展示場 | 14 (p.28)がオススメ! |

観光／視察支援、周辺サービス

- | | | |
|---|---------------|--------------------------|
| ☐ 海外からの参加者に対し、何を案内すればよいのか分からない。 | #MaaSプラットフォーム | 16 (p.31)がオススメ! |
| ☐ 十分な観光案内を提供できておらず、参加者の満足度を高めることができていない。 | | |
| ☐ 会場をおもてなしの場として活用しきれていない。 | #ミスト | 17-1 (p.32)がオススメ! |
| ☐ 来場者へエンターテインメントを提供したい。 | #ドローンショー | 17-2 (p.33)がオススメ! |

事前準備	受付	開催中
運営サポート	入退場管理 会場案内	式典・レセプションでの活用 セッションでの活用 展示や商談での活用 観光／視察支援、周辺サービス

プログラム一元管理(国際会議向け)

テクノロジーの概要

- 学会の事務局業務から特設サイト開設までをワンパッケージにした、学会の一元管理システム。(日本語・英語)
- 学会に係るヒトやコンテンツの管理(各種依頼、受領、承認等)を、クラウド上で定型処理が可能のため、手作業によるミスの最小化、工数削減が可能。
- オンサイト／オンラインのハイブリッド開催に向けたオンライン会場構築の機能も具備しており、そのコスト(金銭・工数)も削減可能。

活用フロー



前提条件

推奨通信環境：10Mbps以上

その他：

【対応デバイス】ユーザー画面：iPhone、Android Phone、PC | 主催者管理画面：PC

【ユーザー画面対応ブラウザ】

PC版：Edge最新版、Chrome最新版 |

iOS版：Safari最新版 | Android版：Chrome最新版

【主催者画面対応ブラウザ】

PC版：Edge最新版、Chrome最新版

テクノロジーの価格感

700万円

内訳：参加者数3,000名・演題数1,200でオンライン会場を使用し、導入サポートをうけた場合

* 画面設計、運用、事務局人件費等は価格に含まない。

提供事業者

株式会社PCO(ピーシーオー)

担当：デジタル事業部 | メールアドレス：smcon@pcojapan.jp

提供事業者の関連ページ：<https://site.smartconf.jp/>



事前準備	受付	開催中
運営サポート	入退場管理 会場案内	式典・レセプションでの活用 セッションでの活用 展示や商談での活用 観光／視察支援、周辺サービス

テクノロジーの概要

プラットフォームの説明動画
<https://youtu.be/1g4KBnVI8hs?si=cyhybYowzyRqeXct>

- MICEの規模／種別を問わず、サイト作成や登録管理、入場管理、ライブ配信などをオールインワンで実現。
- 参加者や出展者同士でのチャットやアポイントメント、商談などエンゲージメント機能が充実。
- 参加者のアクションにポイントを設定し、「興味関心が強い人のみ抽出」なども可能。



活用フロー

	主催者	出展者	参加者
準備	● WEBサイト準備 ● 招待メール準備 ● アンケート項目準備 ● セッションスケジュール管理 ● ライブ配信、オンデマンド管理 ● 論文査読管理	● バーチャルブース準備 ● タスクやコンテンツ管理 ● スタッフ管理 ● オンライン商談準備	● WEBサイトから参加登録 ● 会場受付用二次元コード確認 ● 参加予定の講演やアポイントメントを管理 ● 学会論文提出
開催中	オールインワンでブランディングされたデザイン/機能を利用して主催者、出展者、参加者がMICEを体験。主催者からのお知らせは、アプリを利用して即時でポップアップ通知。特定の参加者のチェックインを主催者、または出展者に通知して効率的なアテンドも可能。 ライブ配信、録画配信組込みプラットフォームを利用して実施。使い慣れたZoomにも対応可。  オンラインでの参加者行動を可視化。参加型ゲームを設定して参加者のエンゲージメント向上に寄与。	出展者はアプリを利用してリードスキャンが可能。獲得リードレポートをポータルサイト経由で連携。  オンラインで出展者と参加者による商談を支援し、顧客タッチポイントを先進的技術で後押し。	会場参加者はスムーズなチェックイン、アテンドを体験。オンライン参加者も先進的なUXを備えたウェブサイトやアプリから配信を視聴可能。コミュニケーション機能だけでなくゲームなども設定可能で、参加者のエンゲージメント向上に寄与。 
開催後	カスタマイズも可能な100種類以上のテンプレートをを用いてレポートが可能。 ● スコアリング機能でホットリードを逃さず、開催後のマーケティング・セールス活動を効率化。 ● Excel形式・CSV形式・テキスト形式でのデータ出力も可能。		

前提条件

- 提供形態はSaaS(年間契約)となります。
- 年間ライセンス+参加者数が基本料金のベースとなる。
1年間に何回MICEを開催しても料金は変わらない。

テクノロジーの価格感

767万円

内訳：基本ライセンス(1式)、イベントータル参加者従量課金費用(4,000名)、オンラインイベント用基本料(1式)、オンラインイベント参加者従量課金費用(1,000名)、リアルイベント受付管理実施基本料(1式)、リアルイベント受付管理-従量課金費用(1,000名)、リードキャプチャ従量課金費用(100式)を想定した概算金額。

*登録者数および追加オプションにより料金は変動。
 *為替レートにより契約時の料金が異なる場合がある。

提供事業者

SaaSpresto株式会社
 担当：Cvent営業窓口
 問合せ先：<https://cvent.saaspresto.jp/contact/>
 提供事業者の関連ページ：<https://cvent.saaspresto.jp/>



アレルギー対応支援アプリ

事前準備	受付	開催中
運営サポート	入退場管理 会場案内	式典・レセプションでの活用 セッションでの活用 展示や商談での活用 観光／視察支援、周辺サービス

テクノロジーの概要

- 食事制限情報の回収と管理を効率化。二次元コード経由で手間なく正確な情報を収集し、参加者情報を一元管理可能。
- アプリを活用することで、提供メニューのアレルギー情報管理やビュッフェカードなどのアレルギー表示作成が容易に対応可能に。
- 多言語翻訳機能、ハラール・ビーガン向け機能があり、国際イベントの多様な食事制限に柔軟に対応可能。

アレルギー管理サービス
<https://youtu.be/GmiMXEMkZiY?feature=shared>



アレルギーヒアリングシステム
<https://youtu.be/3BxDBuyzXZs?feature=shared>

活用フロー

アレルギーヒアリングシステム

【主催者】 イベント毎に専用の二次元コードを発行し、参加者にメール等で配布。回答結果を確認することで、参加者各々の食事制限情報を把握。

【参加者】 参加者は主催者から送付された二次元コード(またはURL)からアクセスし、食事制限に関する質問に回答。



アレルギー管理サービス

【主催者】 提供メニューの情報を登録し、加工品の表示ラベルや食品規格書をアップロードすることで、アレルギー表を自動生成。ビュッフェカードとして印刷したり、Webページで公開したりするなど、様々な形式でアレルギー情報の共有が可能。



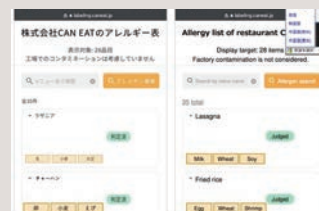
準備

【主催者】 事前の回答内容にもとづき、食事制限対応が必要な参加者へ料理を提供



【主催者】 現場スタッフも、アプリ画面上で、メニューに含まれるアレルギー情報を入力可能

【参加者】 スマホ等でWEBページにアクセスし、アレルギー表を確認可能



開催中

【主催者】 参加者の申請情報が保存されるため、過去の参加者について検索が可能

【主催者】 提供メニューや加工品に関する情報が保存されるため、他のイベントでも利用が可能

開催後

前提条件

対応OS: (PC)Windows、Mac、(モバイル)
iOS、Android
インターネット環境: 必須

テクノロジーの価格感

アレルギーヒアリングシステム: 5,000円/イベント(都度価格。一度の申請人数として最大300人程度までを想定)
アレルギー管理サービス: 約10万円～100万円/年契約(登録する加工品や付加サービスにより料金が異なる)

提供事業者

株式会社CAN EAT
 担当: 川口 泰 | メールアドレス: kawaguchi.tai@caneat.jp
 提供事業者の関連ページ: <https://about.caneat.jp>

事前準備	受付	開催中
運営サポート	入退場管理 会場案内	式典・レセプションでの活用 セッションでの活用 展示や商談での活用 観光／視察支援、周辺サービス

～入退場管理～

顔認証入退場管理

テクノロジーの概要

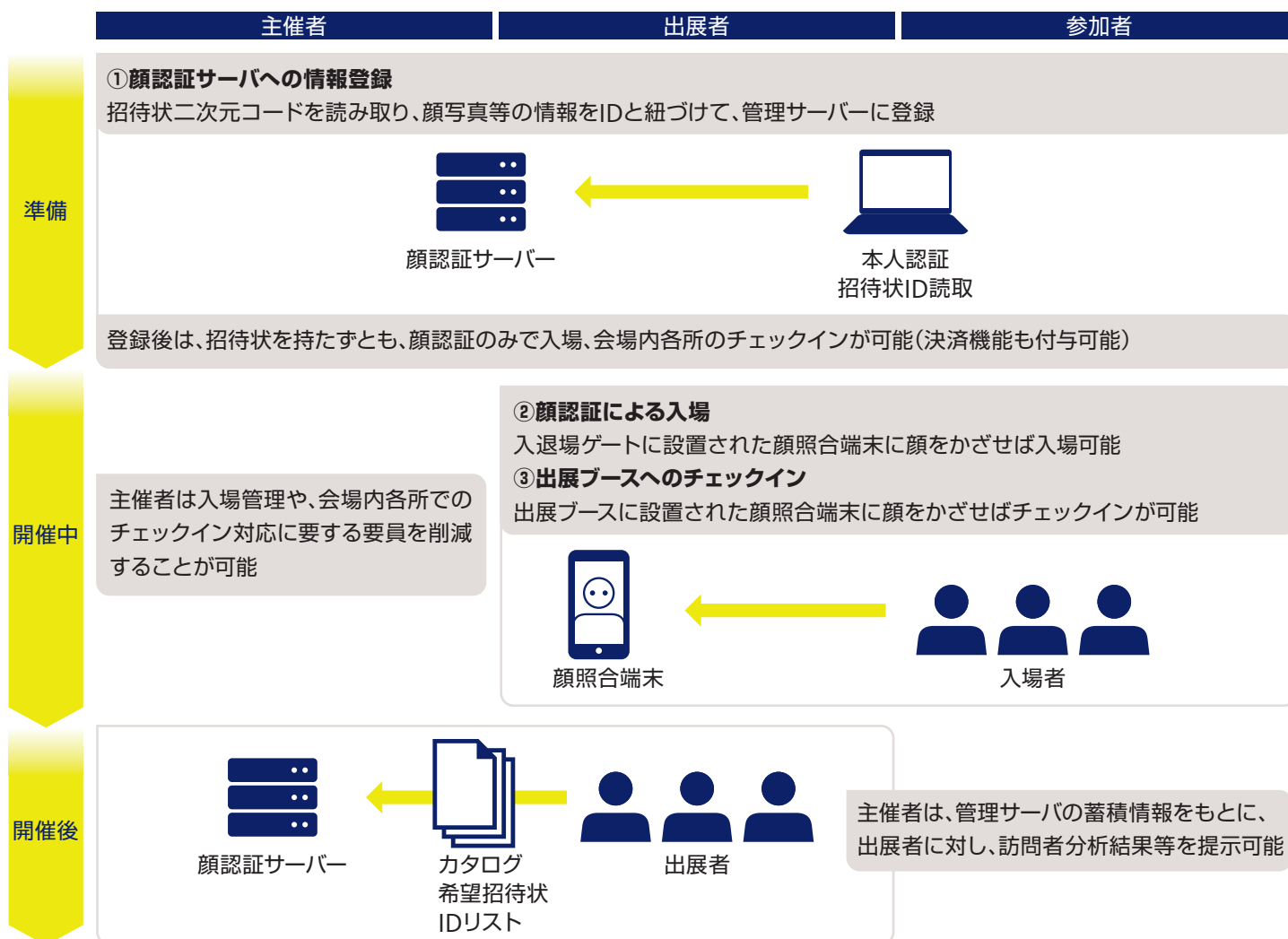
顔認証クラウドサービスの概要(動画あり)

<https://connect.panasonic.com/jp-ja/products-services/facial-recognition/kpascloud>

- 顔認証を活用した、セキュアかつ手ぶらで利用可能なセキュリティゲートを実現。
- 登録した顔情報にて、入場、出展ブースでのチェックイン等複数の利用シーンで顔認証が可能。
- 本テクノロジーを導入することで、主催者は、入場管理や訪問履歴ログによる情報提供業務の効率化が可能。



活用フロー



前提条件

- 推奨通信環境：無線LAN(2Mbps以上)
- その他：パスポート・マイナンバーカード
本人確認による顔登録機能も開発を検討中。価格は要相談

テクノロジーの価格感

1,500万円

内訳：招待状ID(二次元コード読込)紐付け顔情報登録アプリ(1式)、顔登録端末(20台)、顔入場端末(20台)、展示ブース(顔チェックイン端末50台)、顔登録人数(3,000人)、利用期間(1か月以内)

- * 顔登録人数と利用期間によって金額変動
- * 入場ゲート、入退システム、電子錠関連、通信環境構築費、電源工事費、利用期間中のコンサル費、開催時におけるエンジニア対応等は価格に含まない。

提供事業者

パナソニックコネクスト株式会社

担当：パブリック営業本部 営業4部 営業1課 織田

メールアドレス：oda.h@jp.panasonic.com

提供事業者の関連ページ：

https://connect.panasonic.com/jp-ja/products-services_facial-recognition

事前準備	受付	開催中
運営サポート	入退場管理 会場案内	式典・レセプションでの活用 セッションでの活用 展示や商談での活用 観光／視察支援、周辺サービス

テクノロジーの概要

テクノロジーについての動画コンテンツページ
<https://corp.sinumy.com/>

- スマートフォンのBluetoothを活用し、スムーズかつセキュアな受付システムを提供。
- アプリを事前にインストールし参加登録をしておくこと、スマートフォンを取り出さずに受付が完了。
- 受付以外に、ブースへのチェックイン、情報配信、決済等にも利用可能。



活用フロー



前提条件

- 通信環境: 無線LAN
- 受付ブースの周囲に電波(Bluetooth)を妨害する設備がないこと(例: 電子レンジ)
- 受付側端末: iOS
- 来場者端末: iOSまたはAndroid(一部端末を除く)

テクノロジーの価格感

10万円～/イベント(要見積)

内訳: ハンズフリー受付サーバーとの連携セットアップ、ハンズフリー受付サーバー費用(1ヶ月)

※ iPad費用を含まず。弊社で開発(参加登録フォームの制作やなど)を行う場合の費用やコンサルティング費用は含まず。

※ 受付以外(ブースごとのチェックイン、情報配信、決済等)のソリューションをご希望の場合も個別にご相談させていただきます

提供事業者

Sinumy 株式会社

担当: 事業開発 倉内 | メールアドレス: contact@sinumy.com

提供事業者の関連ページ: <https://corp.sinumy.com/>



遠隔コミュニケーションロボット

事前準備	受付	開催中
運営サポート	入退場管理	式典・レセプションでの活用
	会場案内	セッションでの活用
		展示や商談での活用
		観光／視察支援、周辺サービス

テクノロジーの概要

- 会場受付やその周辺において、サイネージを搭載した自走型ロボットで参加者へ情報掲示を行ったり、遠隔オペレーターと参加者間の双方向の会話を通じた各種問合せ対応を行うことが可能。
- 会場内に複数設置した場合でも、オペレーターは遠隔で各端末に接続することになるため、多言語対応のスタッフ等の人数を削減するなど、効率的なスタッフ配置を検討することが可能。

活用フロー



前提条件

- 推奨通信環境：
無線LAN(-50dBm以上、10Mbps以上)

テクノロジーの価格感

コンシェルジュ：1台当たり 40万円/日
 サイネージ：1台当たり 40万円/日
 内訳：ロボットレンタル費用(現地設置日から撤収日までの1日当たりの参考価格)
 * 輸送費、現地調整費、設営スタッフ費用、遠隔オペレーター人件費、通信環境構築費、利用期間中のコンサル費、開催時におけるエンジニア対応等は価格に含まない。

提供事業者

THK株式会社 サービスロボット事業部
 担当：小林久朗 | メールアドレス：hi.kobayashi@thk.co.jp
 提供事業者の関連ページ：https://www.thk.com/jp/ja/products/robot_top/

事前準備	受付	開催中
運営サポート	入退場管理 会場案内	式典・レセプションでの活用 セッションでの活用 展示や商談での活用 観光／視察支援、周辺サービス

テクノロジーの概要

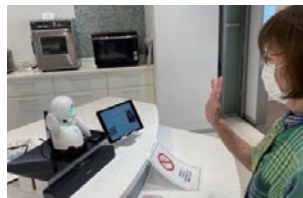
分身ロボットの説明動画
<https://youtu.be/cycgjINMYhl?si=HnBB6u3jMyUYguQj>

- 会場に足を運ばない人の存在感を伝える「分身ロボット」が往来しお客様を接遇することにより、未来感のあるカンファレンスシーンを演出可能。
- OriHimeを通じて、参加者が会議に遠隔参加できるだけでなく、スタッフも遠隔にて接客対応が可能。
- 本サービスの導入において、外出が困難な方（障がい者、子育て、介護）の在宅勤務等での活躍を促進可能。



活用フロー

	主催者	出展者	参加者
準備	① OriHimeを活用したスタッフ業務の洗い出し ② OriHime経由で参加可能なプログラム設定・事前周知 2 スタッフ業務のスクリプト、説明資料、投影用のiPadスライドを用意 3 通常スタッフの事前トレーニングをリモートにて受講（外国語対応、業界知識、接遇など） 4 OriHimeの操作練習 5 ロボット稼働準備（Wi-Fi、電源、テストログイン）		1 OriHimeによって参加可能なプログラムの検索、会議ID/PSWDの事前取得 2 OriHime操作アプリの事前DL
開催中	1 OriHimeによる接遇・利点の説明 — 抜群のアイキャッチ効果 — 多言語対応（パイロット訓練必須） — iPadによるビジュアル説明が可能 — 移動型分身ロボット（OriHime-D）による簡易誘導 等 2 ダイバーシティ&インクルージョンに対するPR活用： — 外出困難者の社会参画 — 少子高齢化に伴う人手不足対策への貢献 等		1 OriHime経由でカンファレンスやミートアップへ疑似参加 2 通常の会議参加と異なるエンゲージメントの創出が可能
開催後	1 催事中にアンケートの呼びかけを実施。来場者等のデータを収集し、事後マーケティングに活用可能。 2 カンファレンス後の観光時に、OriHimeを貸出。OriHimeを通じた遠隔パイロットによる多言語ガイドまたは現地スタッフの通訳対応が可能。（事前観光情報の訓練必須）		



前提条件

- 推奨通信環境：無線LAN（OriHime：上り下りとも10Mbps以上、OriHime-D：上り下りとも50Mbps以上）
- OriHime-Dの稼働の場合、床面が平滑で段差がないこと
- OriHime-Dのバッテリー稼働時間：5～6時間（バッテリーの途中換装可能）
- OriHimeパイロット（遠隔就労スタッフ）は複数人で1時間ごとにシフトを組み、1ポジションを担務します。（稼働時間の目安：10時～17時7時間/日程度）

テクノロジーの価格感

- OriHime-D（移動型）50万円/日～
 - OriHime（卓上型）10万円/日～
- 内訳：ロボットレンタル費（OriHime 4万円～OriHime-D 17.5万円）、OriHimeパイロット研修費（1名あたり）25,000円～、インターネット回線費（14,800円/月、OriHimeパイロット人件費（5000円/h）、テクニカルスタッフ立会い人件費（30,000円/人日）、精密機器梱包・運搬費5～10万円（都内の場合）

提供事業者

株式会社オリイ研究所
 担当：鈴木メイザ（OriHime事業部）
 メールアドレス：event@orylab.com
 提供事業者の関連ページ：<https://orylab.com/product/>



事前準備	受付	開催中
運営サポート	入退場管理 会場案内	式典・レセプションでの活用 セッションでの活用 展示や商談での活用 観光／視察支援、周辺サービス

AI案内

テクノロジーの概要

- サイネージによる施設・観光案内を実現し、インフォメーションの省人化に寄与。
- アバターが案内を実施、簡単なQ&AはAIが回答し、難しいものは遠隔による有人対応が可能。
- 本サービスの導入において、外出が困難な方（障がい者、子育て、介護）の在宅勤務等での活躍を促進可能。

活用フロー



前提条件

- 推奨通信環境：無線LAN(2Mbps以上)

テクノロジーの価格感

1,000万円
 内訳：案内用受付端末(9台)、オペレータ端末(3台)
 * 利用期間(準備期間含め2週間以内)
 * 開催時における保守対応あり(予備機:受付端末1台、オペレータ端末1台)
 * 利用期間中のコンサル対応、オペレータ要員、通信環境等は価格に含まない。

提供事業者

パナソニックコネクト株式会社
 担当：パブリック営業本部 営業4部 営業1課 織田
 メールアドレス：oda.h@jp.panasonic.com
 提供事業者の関連ページ：
https://connect.panasonic.com/jp-ja/products-services_tazune

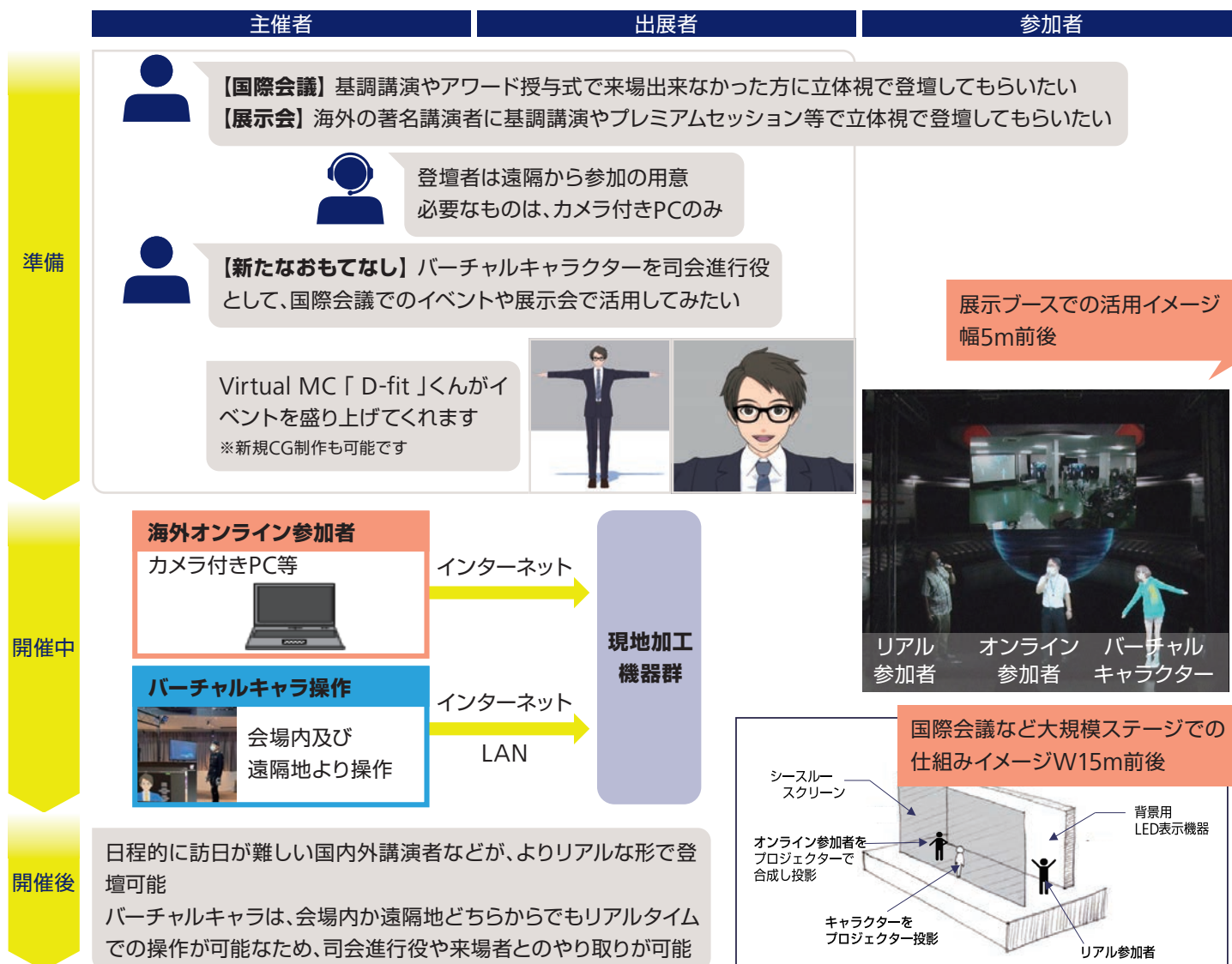
事前準備	受付	開催中
運営サポート	入退場管理 会場案内	式典・レセプションでの活用 セッションでの活用 展示や商談での活用 観光／視察支援、周辺サービス

3D表示システム

テクノロジーの概要

- オンライン登壇者をリアル空間に立体視投影することが可能。
- 海外の著名登壇者や授賞者を目の前に登場させることで、臨場感のあるステージを構築。
- パーチャルキャラクターの3次元化も可能であり、多彩なステージを実現。

活用フロー



前提条件

- 推奨通信環境：
 - 通信環境構築(インター ネット回線 10Mbps以上)
- ブースなど舞台以外での導入の場合、ブースバックヤード内に機器設置スペース(3m×5m程度)を確保する必要がある

テクノロジーの価格感

300万円～ * 展示ブースでステージ幅5mまで 既存キャラクター活用の場合
 2,000万円～ * ステージ幅15mまで既存キャラクター活用の場合
 内訳：初期費用、既存キャラクター利用費、基本システムレンタル費、技術オペレーター人件費、キャラクターパフォーマー人件費、準備期間中の人件費(4か月以内)
 * 演出構成費、映像表示装置レンタル費(本システムとの併用可能)、新規オリジナルパーチャルキャラクター制作費(1体100万円～)、利用期間中及び事後展開のコンサル費、オンラインプラットフォーム利用料は価格に含まない

提供事業者

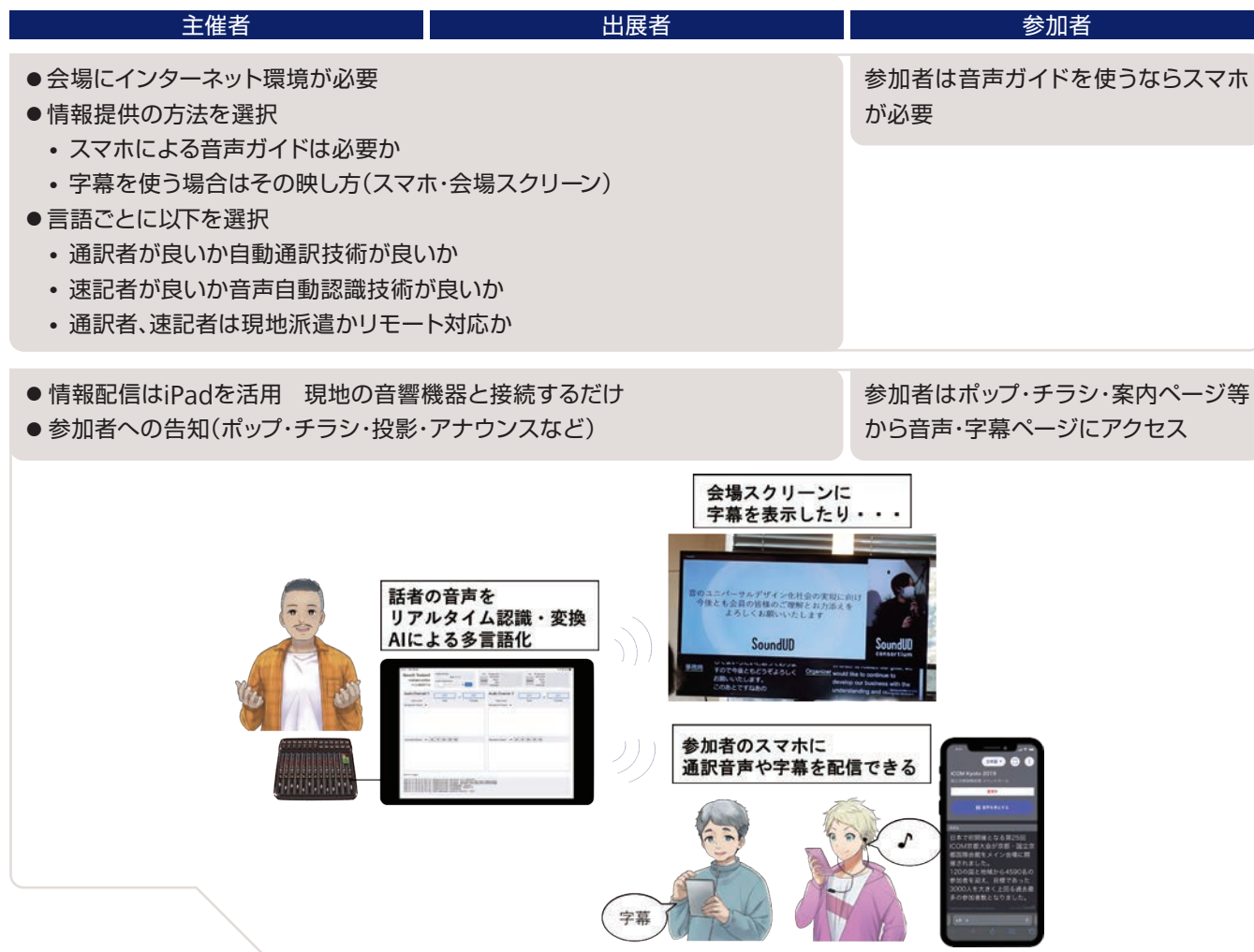
株式会社レイ(共同企画：株式会社ICT、株式会社ディーフィッツ)
 担当：イベント事業本部 紺井 | メールアドレス：multiverse@ray.co.jp
 提供事業者の関連ページ：https://ray.co.jp/service/

事前準備	受付	開催中
運営サポート	入退場管理 会場案内	式典・レセプションでの活用 セッションでの活用 展示や商談での活用 観光／視察支援、周辺サービス

テクノロジーの概要

- 通訳・字幕のサービスが一体に！ユニバーサルデザイン・サステナブルな対応を簡単に実現。
- シーンや予算に合わせて、言語数、通訳者派遣かAIの自動通訳か、オンサイトかリモートか、など柔軟に選べる。
- 参加者のスマホを活用するので、大規模イベントでも大勢の方にご利用頂くことが可能。
- 自身が分かる言語で情報の発信・受信ができるため、国を跨いだシームレスなコミュニケーションに寄与する。

活用フロー



前提条件

- 推奨通信環境：
無線LAN(-50dBm以上、10Mbps以上)

テクノロジーの価格感

20万円～/日※1 32万円/日※2

利用シーン：講演・セミナー会場10会場、8時間のイベント、参加者数3000人のうち10%が利用と想定

※1 ユーザーへの配信なし(音声は会場スピーカーからのみ、字幕は会場スクリーンへの字幕投影のみとする、など)

※2 ユーザーへの配信あり(通訳音声や多言語字幕をユーザー端末に配信する場合)

内訳：システム利用料(会場数、想定利用者数、利用時間で変動。言語数は問わない)
通信環境構築費、iPad等の機材費、コンサル費、開催時におけるエンジニア対応、通訳者派遣費等は価格に含まない。

提供事業者

SoundUDコンソーシアム(ヤマハ株式会社内)

メールアドレス：soundUD-consortium-ML@music.yamaha.com

提供事業者の関連ページ：https://soundud.org/sud/

事前準備	受付	開催中
運営サポート	入退場管理 会場案内	式典・レセプションでの活用 セッションでの活用 展示や商談での活用 観光／視察支援、周辺サービス

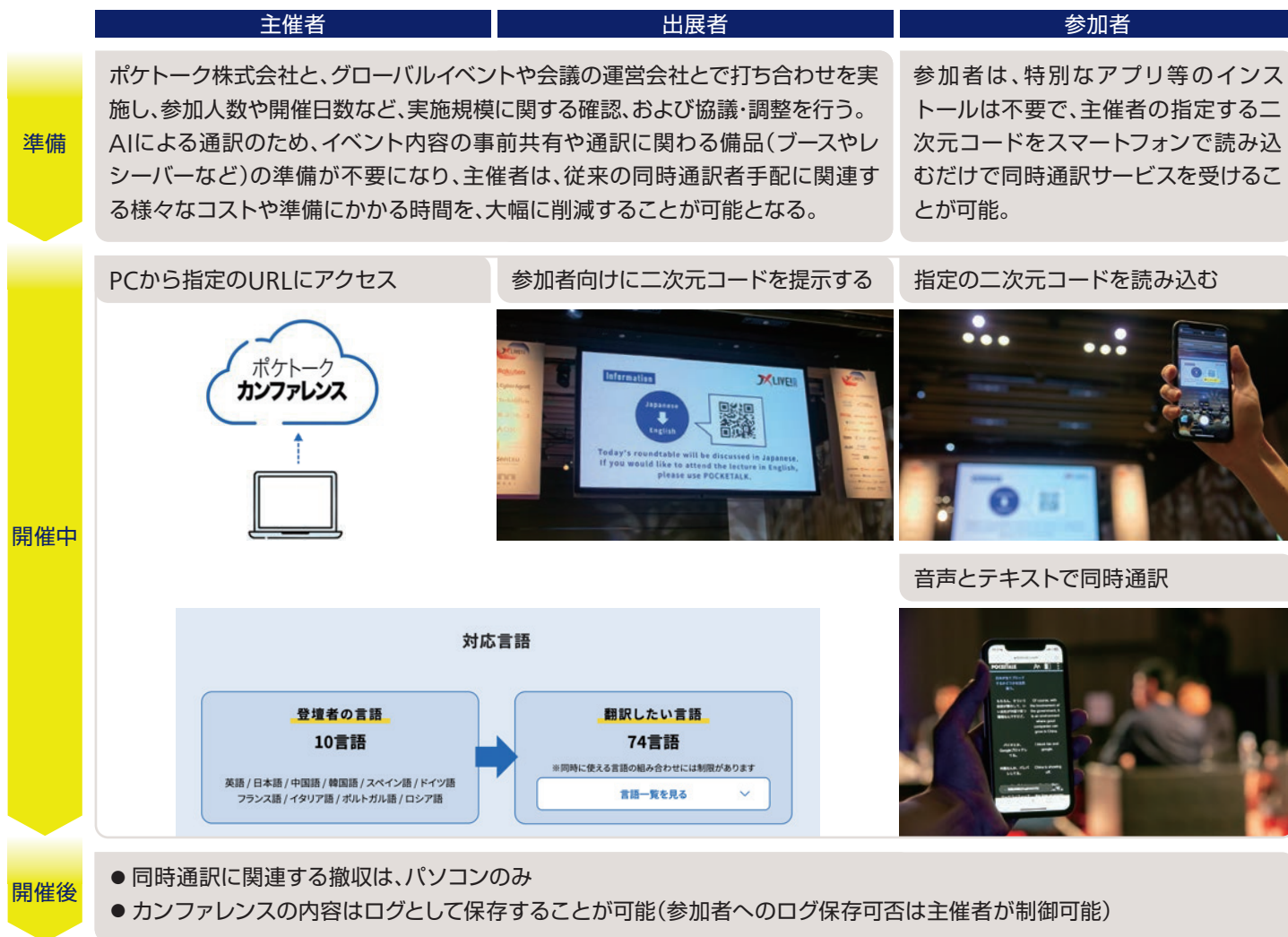
テクノロジーの概要

同時通訳ガイドの説明動画
https://youtu.be/SQfIJ_Uk5eI?si=CMNzrX1w6BKtXXAx

- 国際会議などの場において、AI技術を活用した精度の高い多言語の同時通訳を実現可能。
- 会議参加者は自身のスマホをレシーバー代わりにすることができ、母国語に翻訳された文字・音声を視聴可能。
- 文字情報でも会議内容の視聴が可能であるため、耳の不自由な方でも会議内容の把握が可能。



活用フロー



前提条件

- 推奨通信環境：
 - 主催者側：上り/下り 8Mbps以上
 - 視聴者側：上り/下り 1Mbps以上
 - 主催者/視聴者共通：レイテンシー(Ping) 100ms以内、ジッター 20ms以内

テクノロジーの価格感

目安として、30万円～/日

※1 ただし、使用時間と参加人数によって変動する

※2 詳細・最新情報については、下記URLを参照のこと
<https://pocketalk.jp/forbusiness/conference>

提供事業者

ポケット株式会社

担当：広報担当

メールアドレス：pr@pocketalk.com

提供事業者の関連ページ：https://pocketalk.jp/forbusiness/conference



事前準備	受付	開催中
運営サポート	入退場管理 会場案内	式典・レセプションでの活用 セッションでの活用 展示や商談での活用 観光／視察支援、周辺サービス

テクノロジーの概要

テクノロジーについての動画コンテンツページ
https://youtu.be/o-MOulL_wM?si=3rsL8Z03mVmQtu4v

- 空間全体を見渡せる大型スクリーンを用い、離れていてもまるでそこにいるかのような空間共有が可能。
- 映像が、等身大・低遅延・高画質なため、離れた場所においても目が合い表情の変化や仕草から、空気感をも伝えることが可能。
- ユニバーサルデザイン設計により、複雑な操作が不要で、IT操作に不慣れな方でも幅広く利用可能。
- 高齢者や移動困難な方にも、臨場感あふれるイベント体験を提供可能。



活用フロー

	主催者	出展者	参加者
準備	1 スクリーンの設置業者に会場の施設情報と図面を共有し、インターネット回線、電源配線、その他設置要件が満たされているかの確認を依頼。 2 スクリーンの設置業者に日程・場所を伝えて設置依頼する(レンタル利用)		なし
開催中	イベント会場と離れた場所でも、まるで同じ空間にいるかのように参加できるため、様々な用途で活用可能。 ● 利用想定事例1) 次世代展示会・物産展 ・ 展示会場への参加が難しい出展者が遠隔地から参加 ・ 移動が困難な商材や現地の雰囲気伝えることが可能 ● 利用想定事例2) 著名人との交流やワークショップなど ライブ、スポーツイベント、講演会などにおいて、少人数限定の特別な体験として、アーティストや著名人とインタラクティブな会話やワークショップを楽しむ機会を安全に提供。		等身大で低遅延な高品質映像により、リアルタイムなコミュニケーションが可能となり、会場に参加できない人もまるで同じ空間にいるかのように会話ができる。
開催後	なし		



設置イメージ

前提条件

- 推奨通信環境：有線LAN (通信速度：60Mbps)
回線速度：500Mbps、ビジネス向け光回線
または同様のサービス
(上下速度60Mbps以上)
- 寸法・重量：
高さ：2400mm、横幅：2450mm、
奥行き：650mm 重量：96kg

テクノロジーの価格感

購入の場合350万-
 内訳：ハードウェア ソフトウェアライセンス+サポート料(月額)
 レンタル利用の場合：応相談
 ※ インターネット回線利用料・工事費用、輸送設置費用は含みません。
 ※ 料金は1台あたりの料金です。

提供事業者

tonari株式会社
 担当：事業開発部 | メールアドレス：hey@tonari.no
 提供事業者の関連ページ：<https://tonari.no/>



事前準備	受付	開催中
運営サポート	入退場管理	式典・レセプションでの活用
	会場案内	セッションでの活用
		展示や商談での活用
		観光／視察支援、周辺サービス

～テレプレゼンス(遠隔商談)～
移動式

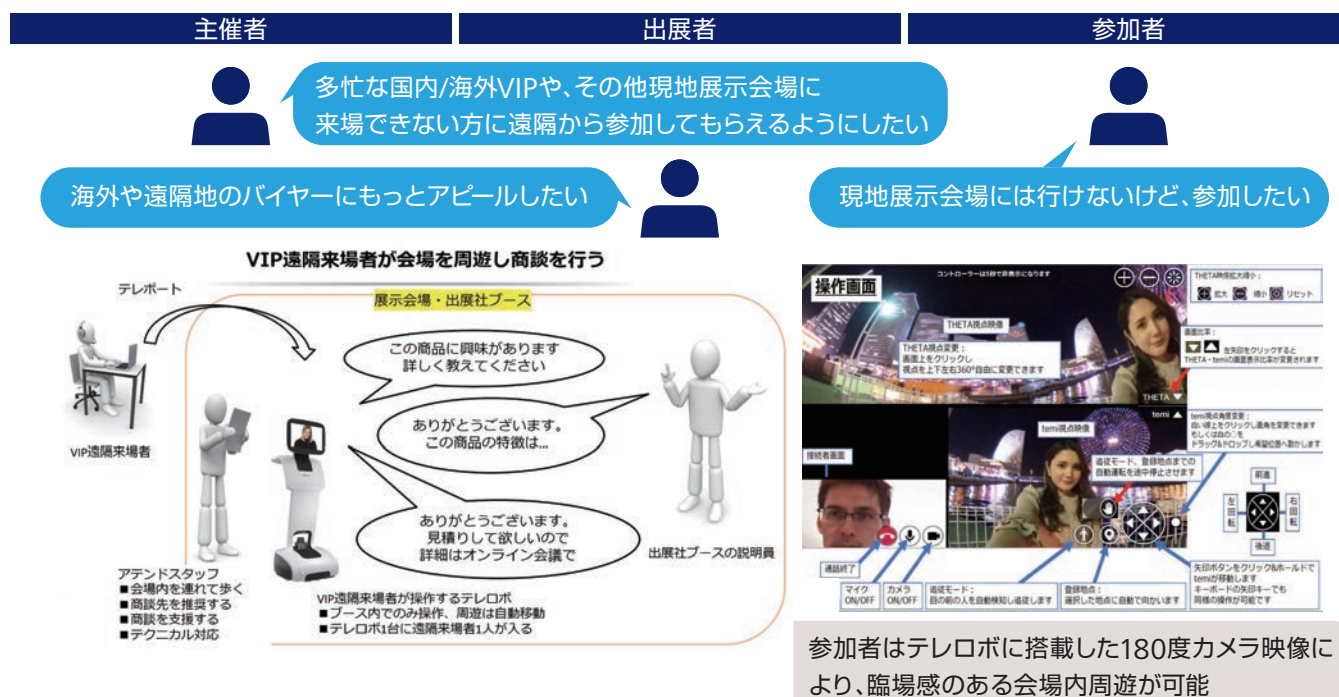
テクノロジーの概要

テレプレゼンスアバターロボットの説明動画
<https://youtube.com/playlist?list=PLNF8EOkD1JAYM6eWB9MEgLaLyVn7U8Bl1&si=bBv2LDHJ1KxxYqTS>

- 利用者はPCのwebブラウザから5G環境などに設置されたオンライン操作可能なテレプレゼンスアバターロボット（テレロボ）を介して、遠隔から展示会へ来場可能（ソフトウェアのインストール不要、専用URLを配布）。
- 遠隔来場者はテレロボや360度映像体験を介して会場内を見学・周遊し、出展者との商談を実施。
- これまで取りこぼしていたVIP来場者等に向けた集客アプローチ方法が増え、出展者満足度向上に寄与。
- 様々な国の方や外出困難な方が、テレロボを介して遠隔来場・遠隔商談を行うことが可能。



活用フロー



参加者はテレロボを介して、出展者との商談を実施することが可能 ※オプションで通訳手配も

開催後 テレロボにより遠隔参加者が見える化されるため、現地展示会場の活気向上や次回展示会への訪問意欲向上にも寄与

前提条件

- 推奨通信環境：
無線LAN(下り 30Mbps、上り50Mbps以上)
- 推奨利用時間：1～2時間×3組/日
(バッテリーの駆動可能時間の目安)

テクノロジーの価格感

1台50万円/週
内訳：テレロボ本体レンタル、独自システム利用、カスタマイズ対応
* 通信環境構築費、事前リハーサル費、スタッフ出張費は価格に含まない。

提供事業者

iPresence株式会社(共同企画：地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター)
メールアドレス：info@ipresence.jp
提供事業者の関連ページ：https://ipresence.jp/



事前準備	受付	開催中
運営サポート	入退場管理 会場案内	式典・レセプションでの活用 セッションでの活用 展示や商談での活用 観光／視察支援、周辺サービス

展示会場誘導ロボット

テクノロジーの概要

- 会場内において、自律移動型ロボットを活用することで、会場内各所への誘導案内を行うことが可能。
- 予めロボットに走行ルートを学習させれば、障害物や人を避けて、安全に目的地まで移動することが可能。
- 会場スタッフの案内業務の工数圧縮ができるため、他業務への工数振り分けが可能。
- 20か国以上の言語に対応しているため、様々な国の方へのご案内が可能。

活用フロー



前提条件

- 推奨通信環境：
無線LAN(-50dBm以上、10Mbps以上)

テクノロジーの価格感

36万円 ※ 目安額であるため、個別問い合わせ要

内訳：自立移動型ロボット(temi)1か月レンタル費用

temi centerとtemi有料アプリbuddiotte(任意のタイミングで言語を切り替えることができ、複数言語でも均質の案内サービスを提供する／サービス利用記録を外部記録台帳にリアルタイムで記録するソフトウェアライセンス料)、設定経費、現地エンジニアによる設定・トレーニング費用含む

- * 通信環境構築費、保険、電源の造作工事等は別途
- * temi本体のレンタルは個別見積
- * ロボットに発話させるセリフは運営者より提供されること(対応言語分)
- * 表示する画像コンテンツは運営者より提供されること

提供事業者

株式会社大塚商会

担当：インサイドビジネスセンター

メールアドレス：INSIDE-ROBOT@otsuka-shokai.co.jp

電話：0120-767-203(平日9:00～17:30)

提供事業者の関連ページ：

<https://www.otsuka-shokai.co.jp/products/ai-iot/robot/temi/>



事前準備	受付	開催中
運営サポート	入退場管理 会場案内	式典・レセプションでの活用 セッションでの活用 展示や商談での活用 観光／視察支援、周辺サービス

～MRによる会場誘導・体験提供～

音声コンテンツ

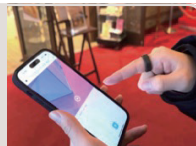
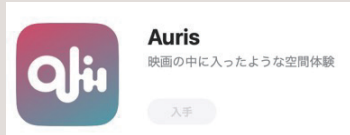
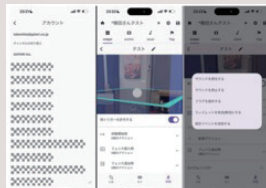
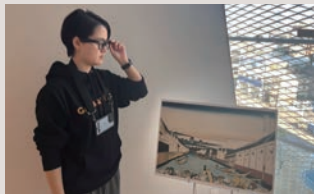
テクノロジーの概要

MRプラットフォームの説明動画
<https://youtu.be/ofoCAmMIsAo?si=2BgTOgpaqfc8pJ3fj>

- MR技術を活用することで、音声コンテンツをリアル空間上にバーチャルに配置することができるシステム。
- 音声コンテンツは事前制作が必要となるが、コンテンツの設置はスマホやタブレットのみで対応可能。
現地での物理的な施工を伴わないことから、短時間且つ施設側に負担をかけない設置が可能。
- 利用者は、スマホ端末等を持った状態でイヤホンをつけることで、会場内の誘導・案内コンテンツやエンタメコンテンツ等の体験が可能。(視覚障害者への対応、多言語対応なども可能。)



活用フロー

主催者	出展者	参加者
デジタル空間を整備するエリアを決定。 「Auris editor」アプリでエリアをスキャンし、デジタル空間を作成。 デジタル空間上に配置する音声コンテンツを制作し、 オーサリングツールから、空間上に配置し任意の体験を設計。 具体的には、来場者向けのエンタメコンテンツ、 誘導・案内コンテンツ、多言語コンテンツ等である。	 	App Storeから「Auris」アプリをインストール 
貸出のスマートフォンや来場者自身のデバイスで体験を提供。  	Aurisがインストールされたスマートフォンで、当該イベントのコンテンツを選択。貸し出しのイヤホンもしくはヘッドホンで体験。 	イベント会場の案内・誘導や、イベントに関連した音声コンテンツ、フラグ機能を活用した体験型コンテンツ、多言語での案内等、好みの体験を受けることができる。
● 体験者や再生回数などの統計データをユーザーごとにトラッキングして、蓄積することができるため、その蓄積したデータ・フィードバック情報をもとに、イベントや展示の効果検証やマーケティングに繋げることができる。 ● 一度整備したデジタル空間はその後もし使い回しができる(仮設会場でない場合)ため、次回以降のイベントにおいてはコンテンツ制作のみで再度そのデジタル空間を活用できる。		

前提条件

対応OS | iOS : 15以上
Android : 12以上(最新バージョン推奨)

端末必須要件 | iPhone : iPhoneXR以降
Android : ARCore対応機種

端末推奨要件 | iPhone Pro端末(16Pro推奨)

通信環境 | 推奨 : 上下10Mbps以上
最低 : 上下2Mbps以上

テクノロジーの価格感

300万円～1,000万円

内訳 : 初期費用、ライセンス料(1年間)、コンテンツ制作費

※ 内容により金額変動がある。

※ なお、コンテンツ制作は導入企業自身で行い、システム提供のみの対応も可能。

提供事業者

株式会社GATARI

担当 : 事業開発部 | メールアドレス : contact@gatari.co.jp

提供事業者の関連ページ : <https://gatari.co.jp/auris-intro/>



事前準備	受付	開催中
運営サポート	入退場管理 会場案内	式典・レセプションでの活用 セッションでの活用 展示や商談での活用 観光／視察支援、周辺サービス

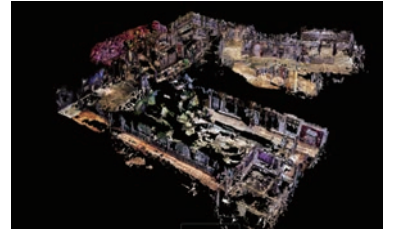
～MRによる会場誘導・体験提供～

音声・映像コンテンツ

テクノロジーの概要

- スマートフォンやMRグラスを活用することで、物理的な制約のある現実空間を拡張し、実空間や展示物の案内、理解支援につながる豊富なコンテンツを提供。多様な人々へ高品質な体験提供が可能。
- 利用者の属性に応じて、ビジュアル/オーディオ、日本語/外国語など提示する情報を選択可能。

活用フロー

	主催者	出展者	参加者
準備	● MR案内を行うエリアを決定し、事前に会場内を3Dスキャン ● MRコンテンツの内容を検討・作成 ● MRを提供するための端末(MR端末:スマホやMRグラス)を決定 ● MR端末の貸出方法・管理方法を決定 ● MRアプリを開発し、MR端末にインストール ● 貸出ブースやその装飾を準備		3Dスキャンデータの例 
開催中	● 貸出ブースにてMR端末を貸出す ・ 受動的なコンテンツ体験に加え、ボタン操作やジェスチャー操作などのインタラクティブな要素を取り入れることで、より没入感のあるコンテンツ体験を提供可能 ● 体験後のMR端末を回収し、次の体験者に備えて充電や消毒を行う		● 貸出ブースにてMR端末を借りる ● 会場内をMR端末を装着しながら回遊する ● MR端末を通して、現実空間や展示物に関する追加説明や演出を、テキスト/静止画/動画/ 3Dモデル/アニメーション/音声などで体験する
開催後	● MR体験の利用状況(例:会場内での滞在エリアと時間、閲覧コンテンツ、操作履歴など)を分析することで、展示物の配置や回遊性向上策の検討に役立てることができる ● 既存の展示物を活かしつつ、MICEイベントに合わせてMRコンテンツを提供することで、来場者の満足度向上につなげることが可能	水木しげる記念館の事例 	

前提条件

スマートフォン端末：iOSやAndroidのカメラ付きスマホ

MRグラス：XREAL Air 2 UltraやNTTコミュニケーションMiRZA等

推奨通信環境：無線LAN(10Mbps以上)

※ カメラ映像による位置認識機能を使うため、極端に暗い場所や鏡が多い場所などは対応不可

テクノロジーの価格感

200万円～

※ 上記金額はMRコンテンツ制作・アプリ利用費 MR端末のレンタル費は別途期間や台数に応じて対応

提供事業者

カディンチェ株式会社

担当：Kadinche Layerd事業部

メールアドレス：corporate-web-contact@kadinche.com

提供事業者の関連ページ：

<https://www.kadinche.com/service/kadinche-layerd>

事前準備	受付	開催中
運営サポート	入退場管理 会場案内	式典・レセプションでの活用 セッションでの活用 展示や商談での活用 観光／視察支援、周辺サービス

混雑状況可視化

テクノロジーの概要

- ネットワークカメラの映像から人の頭部や全身を検知・認識し、リアルタイムで対象エリアの混雑状況を計測。
- 各エリアの混雑状況をリアルタイムに把握できるため、来場者の効率的な誘導が可能。
- ディスプレイやサイネージ等と連携も容易であり、喫煙所、休憩所の混雑状況の告知、無人での誘導も可能。

活用フロー



前提条件

- 推奨通信環境：無線LAN

テクノロジーの価格感

カメラ1台毎：60万円 * 会場規模、会場数によりカメラ機種・台数は変動します。

内訳：標準カメラ、カメラ三脚、混雑状況可視化利用料、準備期間料（利用期間5日間の場合のカメラ1台当たりの費用）

* 通信環境構築費、利用期間中のコンサル費、開催時におけるエンジニア対応等は価格に含まない。

提供事業者

パナソニックコネクト株式会社

担当：パブリック営業本部 営業4部 営業1課 織田

メールアドレス：oda.h@jp.panasonic.com

提供事業者の関連ページ：
<https://connect.panasonic.com/jp-ja/products-services/crowdedvisualization/top>

事前準備	受付	開催中
運営サポート	入退場管理 会場案内	式典・レセプションでの活用 セッションでの活用 展示や商談での活用 観光／視察支援、周辺サービス

人流解析

テクノロジーの概要

- 電子タグ、ビーコン等の無線技術を利用し、VIPや来場者などの行動履歴を把握することができるテクノロジー。
- <1. Wi-Fiプローブ>Wi-Fiプローブ(Wi-Fi対応のスマートフォン等が周辺のアクセスポイントを検索するために発信される信号)の情報を利用し、リアルタイムで会場内の来場者の人数・混雑状況の把握が可能。主催者が入場制御等の対応を実施するための判断材料として活用することに期待。また同一のスマートフォン端末が複数のアクセスポイントで検知されることで回遊状況や滞在時間の分析が可能であり、ブース配置や案内の検討が可能となる。
- <2. Bluetoothベースの高精度測位技術(Quuppa)>会場全体あるいはブースの天井等に「ロケーター」を複数設置しておけば、「専用タグ」を持った人や物のブースや会場内での移動状況を捕捉可能。そのため、ブースや会場内での展示物やスタッフ配置のオペレーション改善の検討材料として活用することに期待。

活用フロー

1. Wi-Fiプローブ

準備



プローブ取得端末の設置
プローブ情報を取得したい範囲を定め、その空間を網羅できるよう、複数箇所にプローブ取得端末を設置する

2. Bluetoothベースの高精度測位技術(Quuppa)



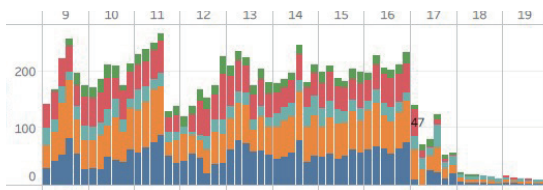
ブースや会場内への「ロケーター」の設置

動線解析を行いたい対象のブースや会場において、一定間隔で「ロケーター」を設置する

開催中

来場者数増減のモニタリング、適宜入場制御等判断

Wi-Fiプローブ情報をもとにしたグラフ等により、会場内各所の来場者数の増減をモニタリングする。混雑箇所を特定したり、適宜の入場制御等の対応を行う際の判断材料として活用する



次回開催時の会場設計、来場動線設計等に活用

Wi-Fiプローブ情報をもとにした滞在や回遊状況の可視化により、会場設計や来場動線設計等に活用する

出展者のスタッフや来場者は、「専用タグ」を常時持った上で、商談やブース訪問等を実施



動線解析

「専用タグ」の動線を事後的に分析し、会場やブース内での展示物やスタッフ等のオペレーション改善の検討を行う



開催後

前提条件

- 推奨通信環境：
Wi-Fiプローブ(なし)、Quuppa(無線LAN(ライセンス認証時のみ利用))

テクノロジーの価格感

Wi-Fiプローブ：150万円～

Quuppa(ブース内)：200万円～ Quuppa(会場全体)：950万円～

内訳：●Wi-Fiプローブ：機器(10台)100万円～、分析・可視化50万円～

●Quuppa(ブース内)：ロケーター(5台)100万円～、タグ(20台)13万円、分析・可視化40万円 ※工事費除く

●Quuppa(会場全体)：ロケーター(20台)400万円～、タグ(500台)300万円、分析・可視化100万円 ※工事費除く

提供事業者

国際航業株式会社

担当：畑 | メールアドレス：hisayuki_hata@kk-grp.jp

提供事業者の関連ページ：<https://www.kkc.co.jp/service/issues/rtls/>



事前準備	受付	開催中
運営サポート	入退場管理 会場案内	式典・レセプションでの活用 セッションでの活用 展示や商談での活用 観光／視察支援、周辺サービス

リアルタイム字幕での対話

テクノロジーの概要

- 様々な国の方々が、リアルタイム翻訳機能を活用し、言語の壁を越えて母国語同士で会話が可能。
- 聴覚障がいや聞こえにくさがある方と、文字起こし機能・テキスト入力機能を活用しスムーズに会話が可能。
- 二種類のUIがあり、1対1のコミュニケーション・複数名のコミュニケーションどちらでも活用可能。



VUEVOの説明動画
https://youtu.be/6diyCpd_ay8?si=C6pUVIhdF2_VH46h

VUEVO Displayの説明動画
<https://youtu.be/GmhCuMfLU5M?si=VhvT1W2b6ypZ3ljQ>

活用フロー

	主催者	出展者	参加者
準備	①VUEVO Display(ビューボ ディスプレイ) 会場に字幕透明ディスプレイとVUEVOマイクを設置する ②VUEVO(ビューボ) 会場にVUEVOマイクと、必要に応じて画面を表示する機器(PC/タブレットなど)を設置する		参加者が必要な事前準備はなし
開催中	①VUEVO Display(1対1の対話シーンで会話を双方向に文字起こし・翻訳が可能) (a) 受付など1対1の対話シーンで活用 (b) 展示ブースなど商談を行う場面で活用 母国語同士で会話ができることでスムーズな受付対応が実現 母国語同士で会話ができることにより円滑な商談が可能	②VUEVO(複数名の会話で話者別に文字起こし・翻訳が可能) (c) セミナーなど多くの聴衆がいるシーンで活用 (d) 交流スペースなど複数人での会話で活用 各参加者の希望する言語で講演内容の確認が可能 数言語同時翻訳により、言語の壁を越えた多様なコミュニケーション機会を創出	
開催後	①VUEVO Display ・利用時間・利用言語のデータを確認することが可能 ②VUEVO ・文字起こしの記録が残るため、会話内容を振り返ることが可能 ・文字起こし記録をもとにした講演記録の作成や要約の自動生成が可能		

前提条件

- ①VUEVO Display
- 必要通信環境：無線LAN(上り1Mbps以上)
 - 必要機器：VUEVOマイク+透明ディスプレイ + iPhone、+その他付属ケーブル
- ②VUEVO
- 必要通信環境：無線LAN(上り1Mbps以上)
 - 必要機器：マイク+スマートフォンorタブレット + 必要に応じて画面を投影するモニター機器(大画面モニターやプロジェクター等)

テクノロジーの価格感

- 〈レンタル費用例〉
- VUEVO Display 65万円～
 - VUEVO 5台 30万円～
- ※ ご利用条件に合わせて、個別にお見積りいたします。

提供事業者

ピクシーダストテクノロジーズ株式会社

担当：View of Voice

事業部メールアドレス：vuevo@pixiedusttech.com

提供事業者の関連ページ：<https://vuevo.net/dx> | <https://vuevo.net/display>



事前準備	受付	開催中
運営サポート	入退場管理 会場案内	式典・レセプションでの活用 セッションでの活用 展示や商談での活用 観光／視察支援、周辺サービス

メタバース展示場

テクノロジーの概要

メタバースイベントプラットフォームの説明動画
<https://vimeo.com/638887242>

- 専門知識不要でお手軽にリアル会場のような展示空間をメタバース(3D)上に構築可能。
- 出展者と参加者とのコミュニケーションや参加者による自由な回遊など、臨場感のある体験を提供可能。
- リアル会場への来場が難しい参加者も、リアルタイムに参加が可能で、地理的制約のないイベントを開催可能。



活用フロー



前提条件

- 推奨通信環境：
無線LAN(-50dBm以上、10Mbps以上)
- 推奨利用端末：
PC(CPU：Core i5-7300U 2.70Ghz以上、RAM：8GB以上、Chrome/Edge最新版)

テクノロジーの価格感

3,000万円 ※ 目安額であるため、個別問い合わせ要

内訳：初期費用、ブース設営枠(250コマ、同数の講演枠を含む)、
来場登録者枠(10,000人分)

* 通信環境構築費、展示コンテンツ制作費、ブース設営に係る人件費、利用期間中のコンサル費、開催時におけるエンジニア対応等は価格に含まない。

提供事業者

株式会社ジクウ

担当：事業統括部

メールアドレス：sales@ziku.inc

提供事業者の関連ページ：<https://ziku.inc/#about>

事前準備	受付	開催中
運営サポート	入退場管理 会場案内	式典・レセプションでの活用 セッションでの活用 展示や商談での活用 観光／視察支援、周辺サービス

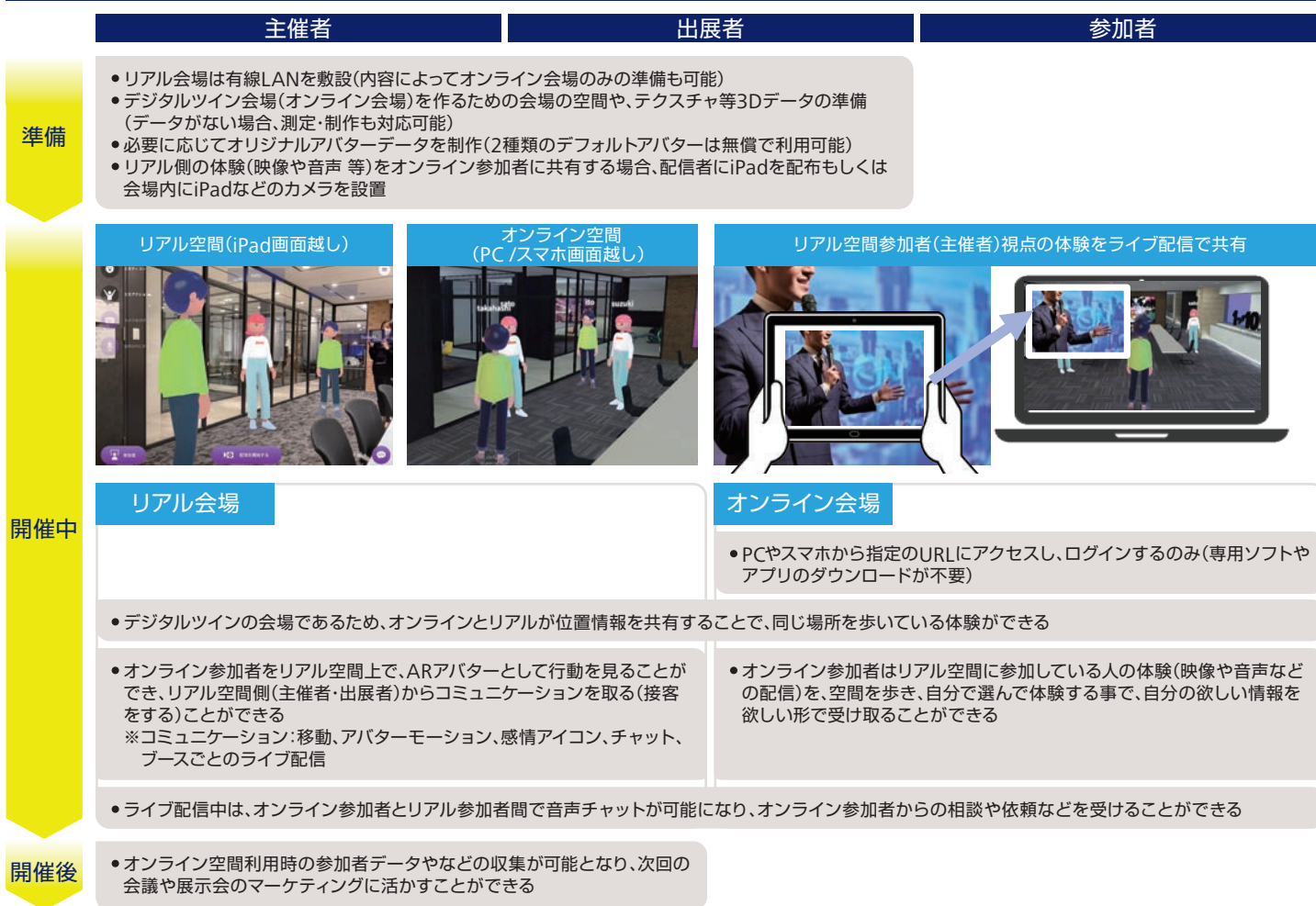
テクノロジーの概要

XRプラットフォームの説明動画
<https://youtu.be/TIXCy7z3v6E?si=C6Dz6VrB7iTiK7P7>

- リアル参加者とオンライン参加者(アバター)の位置情報を共有し、それぞれの空間でリアルタイムに行動を反映。
- アバターモーションや感情アイコン、チャットなどでコミュニケーションが可能。
- リアル参加者目線の体験(映像や音声等)をオンライン参加者に共有でき、体験価値の向上に寄与。
- 自分の分身である“アバター”を介することで、どなたでも身体的コミュニケーションを含めた、人と人とのコミュニケーションが可能。



活用フロー



前提条件

- 推奨通信環境：有線LAN(10Mbps以上)

テクノロジーの価格感

MIC：5,000万円～ | E：10,000万円～
 内訳：MIC／初期制作費用、セミナー会場(10会場)、ブース制作費(50コマ)、リアル会場連携、サーバー・ライブ配信(3,000人×8時間分)
 E／初期制作費用、メイン会場(1会場)、ブース制作費(250コマ)、リアル会場連携、サーバー・ライブ配信(10,000人×10時間分※1時間×10回)
 * バーチャル側のみ、リアル側のみ、参加人数や同時接続人数の内容によって見積もり変動あり。
 * 空間・アバター3Dデータは主催者提供の上、ブースに関しては基本同一サイズを利用しテクスチャなどでイメージ変更対応の想定、リアル配信用のタブレットはレンタル想定、通信環境構築費・利用期間中のコンサル費・開催時におけるエンジニア対応・現地調整などの宿泊・交通費等は価格に含まない。

提供事業者

株式会社ワントゥーテン

担当：事業推進 鈴木 | メールアドレス：t.suzuki@1-10.com

提供事業者の関連ページ：<https://www.1-10.com/tech/xr/>

事前準備	受付	開催中
運営サポート	入退場管理 会場案内	式典・レセプションでの活用 セッションでの活用 展示や商談での活用 観光／視察支援、周辺サービス

～ハイブリッドイベントプラットフォーム～

オンライン・リアル間のコミュニケーション

テクノロジーの概要

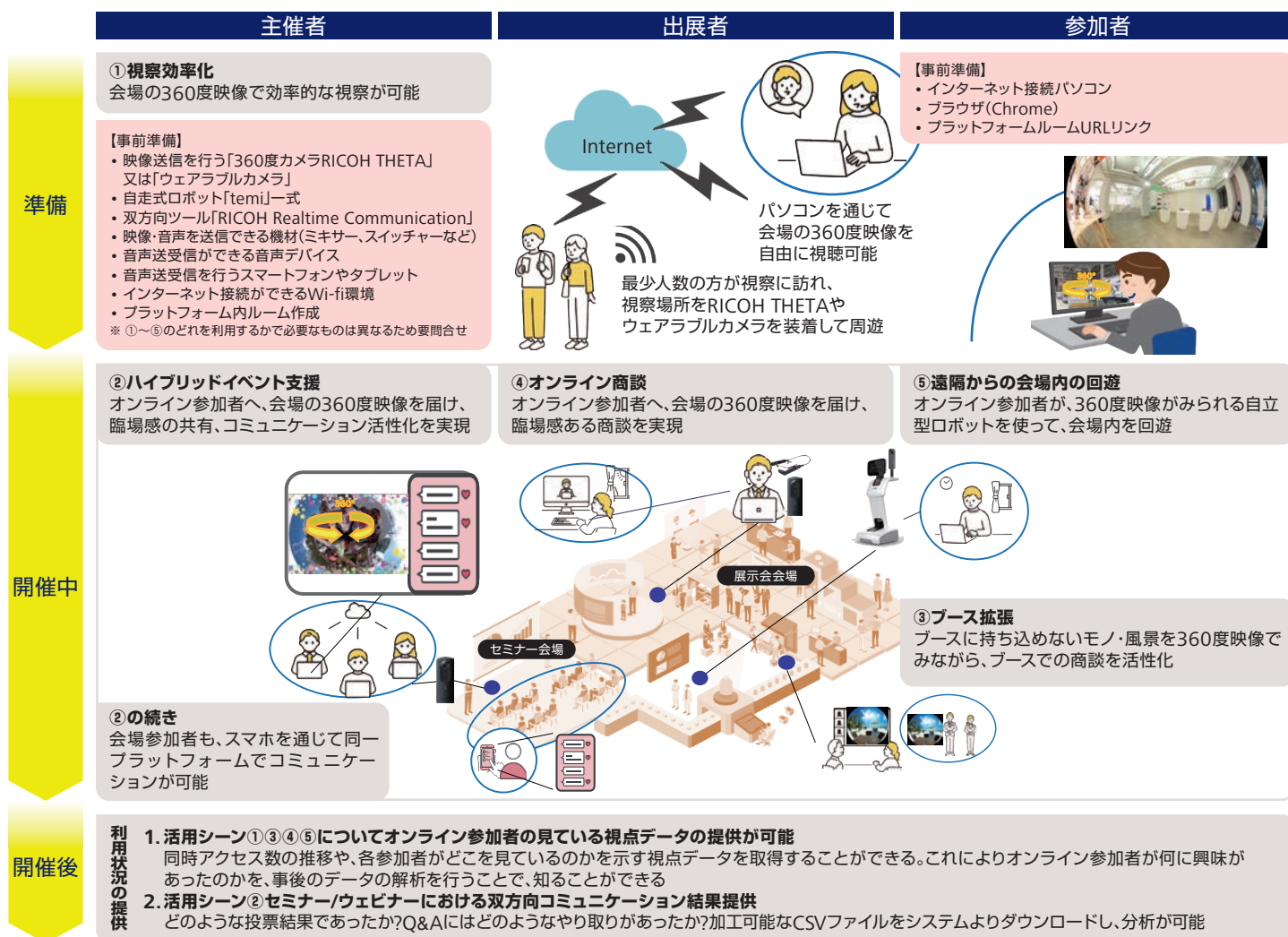
360度映像配信システムの説明動画
https://youtu.be/UG-kg_fVxRA?si=zP198SqM95RRheSt

- 360度高画質の映像・音声を、インターネットを介して送受信できるプラットフォーム。
- オンライン参加者が、リアル会場内を回遊したり、リアルのブースで臨場感ある商談を行うことなどが可能。
- チャット・投票ツール連携で、セミナー中リアルタイムでの投票・質疑等の双方向コミュニケーションが可能。
- 様々な国の方や外出が困難な方が、プラットフォームを通じて円滑なコミュニケーションが可能。



チャット・投票ツールの説明動画
https://youtu.be/7DB6P4M2c7Y?si=a6m8Tm6_bXaUuEU8

活用フロー



前提条件

- 推奨通信環境：
無線LAN(-50dBm以上、10Mbps以上)

テクノロジーの価格感

- ①45万円～ 上限接続数5拠点/日 ②120万円～オンライン・リアル参加：各200接続/セミナー(2.0H)
 ③④45万円～ 上限接続数5拠点/日/ブース ⑤85万円～ 上限接続数5拠点/日/台
 ※ 全て配信先1か所あたりの金額
- ① 内訳：初期費用、THETA×1台、ウェアラブルカメラレンタル×1台、準備期間中の人件費(2人日以内)
 ※ 通信環境構築費、本番時のエンジニア対応、音声送受信デバイス等は価格に含まない。
- ② 内訳：初期費用、THETA×1台、準備期間中の人件費(3人日以内)
 ※ 通信環境構築費、本番時のエンジニア対応、スイッチャー、音響装置、パソコン及びそれらのオペレーション費用は価格に含まない。
- ③④ 内訳：初期費用、THETA×1台、ウェアラブルカメラレンタル×1台、準備期間中の人件費(2人日以内)
 ※ 通信環境構築費、本番時のエンジニア対応、ブース拡張先の音声送受信デバイス、ブース側の大画面表示装置、パソコン等は価格に含まない。
- ⑤ 内訳：初期費用、THETA×1台、temi×1台、準備期間中の人件費(2人日以内)、本番時の人件費(1人日)
 ※ 通信環境構築費、パソコン等は価格に含まない。

提供事業者

リコージャパン株式会社
 担当：スマートコミュニケーション企画センター MICE事業グループ | メールアドレス：CSG@jp.ricoh.com
 提供事業者の関連ページ：https://jp.ricoh.com/release/2021/0701_1

事前準備	受付	開催中
運営サポート	入退場管理 会場案内	式典・レセプションでの活用 セッションでの活用 展示や商談での活用 観光／視察支援、周辺サービス

MaaSプラットフォーム

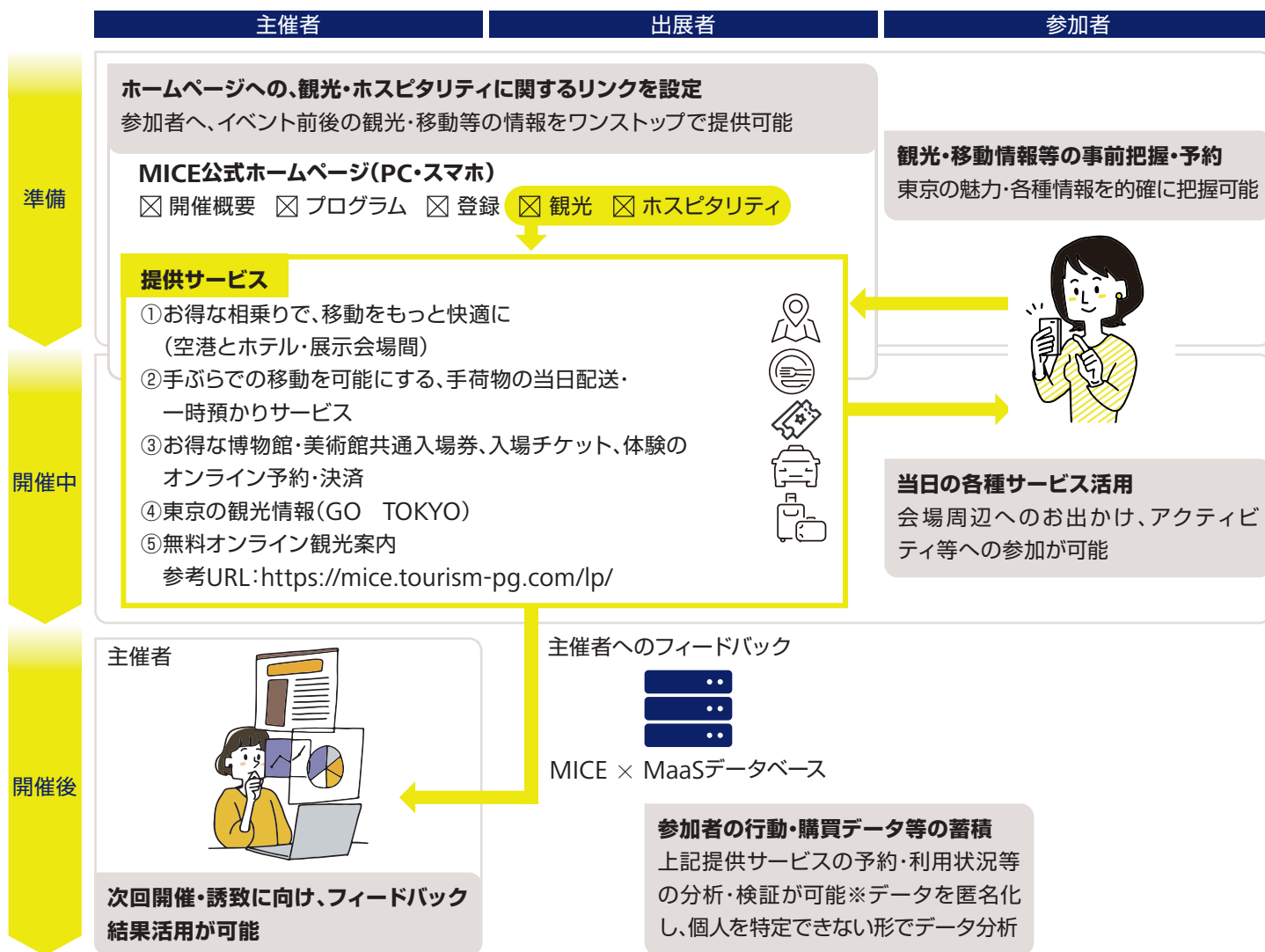
テクノロジーの概要

<https://www.jtbbwt.com/government/service/solution/kankou-dx/regional-dx/tourism-platform-gateway/> MaaSプラットフォームの説明動画

- 国内外から東京を訪れるMICE参加者が、スマホ1台で東京滞在を快適に、満喫できる観光DXサービス。
- MICEホームページ内に、イベント前後の観光・移動等の情報検索及び予約決済機能をワンストップで提供できるリンクが設置される。
- 開催後、データベースに蓄積された参加者の行動・購買データ等を匿名化して分析することで、次回開催に向けて活用可能なフィードバックが得られる。



活用フロー



前提条件

- 推奨通信環境：特になし

テクノロジーの価格感

500万円～

内訳：サービス利用料1か月分。催事規模やアクセス数によって金額は変わらないが利用期間によって金額は変わる。

* MICE公式ホームページ開設費用及びリンク設定費用、提供サービス⑤・⑥以外の購買・利用データの提供は価格に含まない。

提供事業者

株式会社JTBコミュニケーションデザイン
 担当：コーポレートソリューション部 黒岩
 メールアドレス：micemaas@jtbcom.co.jp
 提供事業者の関連ページ：

<https://www.jtbbwt.com/government/service/solution/ict-kankou/maas/tourism-platform-gateway/>



事前準備	受付	開催中
運営サポート	入退場管理 会場案内	式典・レセプションでの活用 セッションでの活用 展示や商談での活用 観光／視察支援、周辺サービス

テクノロジーの概要

極微細ミストの説明動画

<https://connect.panasonic.com/jp-ja/products-services/projector/lineup/swr10/rtt>

- ぬれ感を感じにくい極微細シルキーファインミストとレーザー装置による映像演出、プロジェクション技術、空間音響演出、プロジェクション技術を組み合わせることで、これまでにないおもてなしを提供。
- リラックス空間を参加者に提供することで、会議や催し前の緊張を和らげる場、コミュニケーションの場として活用可能。
- 上記リラックス空間自体が周囲からみた美しいオブジェとして機能することでにぎわい創出にも貢献。
- 様々な人たちに対して、視覚・聴覚・体感を通して驚きと感動を伝えることに貢献。



活用フロー

主催者

参加者

準備

- 直径3.6m高さ2.3mのドームを設置する空間の確保
※会議会場以外でロビーや通路等。照明や外の光が直接入り込むような明るい場所は避け、調光などができる場所が望ましい
- 電源：単相100V15A×2
- 水道蛇口：一口
- 会場図面情報

- ミスト機器、レーザー・照明ドーム、音響などの機材一式
- マインドリセット空間のレイアウト図面などの情報



開催中

- マインドリセット空間を参加者が利用、また演出テーマが参加者の国地域に関するもの等にカスタムすることで、おもてなし効果を発揮し、会場の顧客満足度の向上に寄与
- 設置期間中に对外アピールすることができ、主催者のブランド価値向上にも寄与
- Well-beingの取組事例として国内外の参加者にアピール可能

- マインドリセット空間参加者へのアンケート調査等で利用効果やさらなるサービス向上への情報収集
- その時期のテーマや来場顧客(国)の趣向に合わせたコンテンツ制作により参加者満足度向上に寄与



- MICE開催時の休憩時間等に利用することで、ストレスの軽減や気持ちの切り替え等、マインドリセットを目的とした非日常空間における体験が可能



開催後

- 実施事例の発信による主催者ブランド価値向上に寄与

前提条件

- 推奨通信環境：不要

テクノロジーの価格感

300万円

内訳：リラックス空間1か所 利用期間：準備期間含め2週間以内(都内限定)

- * 期間中の運営に関する費用(機器の立上、終了。ドレン水などの排水、アロマ液などの補充、コンサル・エンジニア対応など)、夜間作業に伴う費用等は価格に含まない。
- 専用演出コンテンツをご要望の際は、内容により製作費が変化するため別途協議。
- その他：直径3.6m×高さ2.3mのドームを設置可能な空間

提供事業者

パナソニックコネクト株式会社

担当：パブリック営業本部 営業4部 営業1課 織田

メールアドレス：oda.h@jp.panasonic.com

提供事業者の関連ページ：

<https://connect.panasonic.com/jp-ja/products-services/projector/lineup/swr10/rtt>

事前準備	受付	開催中
運営サポート	入退場管理 会場案内	式典・レセプションでの活用 セッションでの活用 展示や商談での活用 観光／視察支援、周辺サービス

～空間演出～

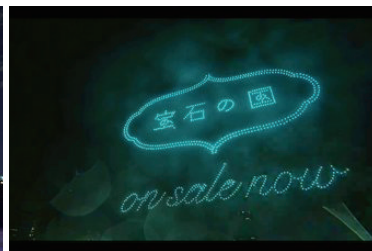
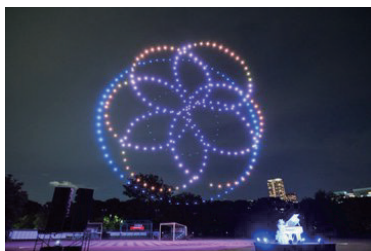
ドローンショー

テクノロジーの概要

- 高輝度LEDを搭載した多数のドローンを夜空に放ち、プログラムされたアニメーションを描くエンターテインメントショー。
- 集客やPRとして活用できるため、参加者やMICEの協賛企業の満足度を高めることが期待できる。
- アニメーションは視覚的に鑑賞・体験できるため、海外の方や聴覚障がいのある方など、多様な人々が等しく楽しむことが可能。

活用フロー

	主催者	出展者	参加者
準備	● ドローン飛行可能場所の選定および使用許可の取得 ● 実施要件の確認 ● 電波状況などの事前調査の発注 ● 実施アニメーションの確認 ● リハーサルの実施 ● 機材の準備(必要に応じて)		参加者の事前準備は不要
開催中	● 世界中からの参加者を会場全体を使ってもてなすことが可能 ● CO₂を排出しないため、地球温暖化防止への貢献が可能 ● SNSなどのメディア媒体で話題になりやすく、活用したMICEの知名度向上に寄与		● 非日常体験を味わうことが可能 ● 言語や障がいに影響されず体験可能
開催後	● 参加者がSNS等に撮影した動画を多数アップロードすることが見込まれるため、後日、情報拡散による高いPR効果が期待できる ● ドローンショーで表示された二次元コードを参加者が読み取り、アクセスしたウェブサイトを通じて、様々なマーケティング施策を展開可能		



前提条件

- ドローンを飛行させることができる場所の確保
- 良好な電波、磁場状況(要事前調査)
- 観覧場所の確保

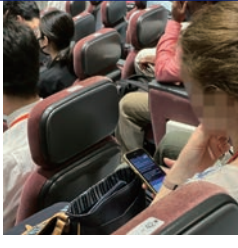
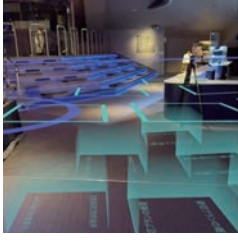
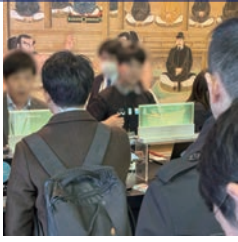
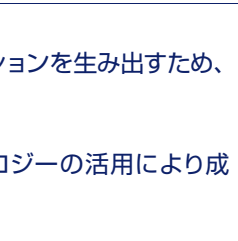
テクノロジーの価格感

100機：約700万円
 300機：約900万円
 500機：約1,250万円
 ※飛行難易度、実施アニメーションにより変動有

提供事業者

ソフトバンク株式会社
 担当：ドローン事務局
 メールアドレス：SBMGRP-drone_jimukyoku@g.softbank.co.jp
 提供事業者の関連ページ：
<https://www.softbank.jp/biz/services/infrastructure/sorabase/>

《コラム》ガイドライン掲載テクノロジーの活用例

07-2 音声多言語化・文字化	活用シーン - 国際会議で、登壇者の発話内容を通訳し、会場参加者へ音声・字幕配信を行いました。 主催者の反応 - 同時通訳者の方が入れないセッションで本テクノロジーを活用することで、より多くのセッションで通訳環境を提供することができたことを評価いただきました。 - 複数回ご利用いただいた主催者からは、回を増す事にAIの通訳精度が向上していると評価いただきました。	
08-2 遠隔商談	活用シーン - 国際学会において、オンライン参加者がテレプレゼンスロボットで現地ポスター研究発表の場へ「遠隔来場」し、現地の発表者との意見交換が実現されました。 主催者の反応 - これまで参加できなかった人が参加できる、これまで見えなかったところまで目が届くようになるなど、利便性の高さが感じられたことを評価いただきました。	
10-1 MRIによる会場誘導・体験提供	活用シーン - 水族館での貸切イベントにおいて、展示空間に合わせた音楽、解説、効果音などの音声演出で世界観を際立たせ、来場者に没入感あふれる鑑賞体験を提供しました。 主催者の反応 - 事前にシステム上で設計・設置等を行うため、当日の設営は簡易な現場検証のみで対応可能でした。この設置・撤去の容易さは高く評価され、人員削減につながる点も評価いただきました。	
13 リアルタイム字幕での対話及び多言語翻訳	活用シーン - イベントの受付において、スクリーンにリアルタイム字幕を表示する受付体制を整え、多言語対応に加え、聴覚障がいのある方も受付スタッフとしてご協力いただきました。 主催者の反応 - 言語の壁を越えたスムーズなコミュニケーションが可能となり、運営の効率化と来場者の満足度向上に貢献した点を高く評価いただきました。	
15-1 オンライン・リアル間のコミュニケーション	活用シーン - 国際会議で、オンライン参加者向けに、現場の熱量を伝えて偶発的なコミュニケーションを生み出すため、約100の教室から360度カメラの映像配信を行いました。 主催者の反応 100拠点同時講演、各教室配信など複雑な運営が求められましたが、本テクノロジーの活用により成功に導くことができたことを評価いただきました。	

東京都次世代型MICE推進会議 メンバー

座長 … 稲田 修一（早稲田大学リサーチイノベーションセンター 教授）
 坂本 和也（DMO六本木 事務局長）
 田中 弘一（一般社団法人日本コンベンション協会 事務局長）
 津川 敦（一般社団法人日本イベント産業振興協会 専務理事）
 南澤 孝太（慶應義塾大学メディアデザイン研究科 教授）

（五十音順、敬称略）

TOKYO MICE テクノロジー導入ガイドライン

発行年：2023年1月
 更新年：2025年3月
 発行：公益財団法人 東京観光財団
 協力：東京都

問い合わせ先

公益財団法人 東京観光財団
コンベンション事業部

東京観光財団ホームページ



<https://jp.busessevent-stokyo.org/>

掲載情報は2025年3月現在のものです

「Business Events Tokyo」のウェブサイトでは、より多くの活用事例をご紹介します。ぜひご覧ください。



（日本語）
https://jp.busessevent-stokyo.org/event_tech/